令和6年度 診療のご案内

Kitakyushu City Yahata Hospital



基本理念

私たちは、24 時間 365 日、質の高い医療を提供し、皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

基本方針

- 1 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行ないます。
- 3 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
- 4 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
- 5 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

患者の権利と責務

北九州市立八幡病院では、安全・安心で患者さんに満足していただける医療を提供するために患者さんの基本的な権利を明確にして、これを尊重いたします。同時に守っていただきたい事柄についても責務として定め、ここに患者の権利と責務として掲示します。

患者の権利

- 1 人格、価値観など個人として尊重され、適切な医療を公平に受けることができます。
- 2 病気についてや検査・治療等について理解しやすい言葉や方法で、十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3 検査・治療について自らの意思で選択し同意、拒否をすることができます。
- 4 現在の検査や治療等について他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 5 個人のプライバシーは守られ、医療上の個人情報は保護され自分の診療記録の開示を求めることができます。

患者の責務

- 1 良質で安全な医療を実現するために、ご自身の健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2 十分な説明と納得の上で、ご自身の治療に積極的に参加・協力してください。
- 3 他の患者さんの治療・療養環境に配慮し、病院職員の医療業務に支障を与えないように病院の規則や社会的マナーを守る責務があります。
- 4 適切な医療を維持していただくために、医療費を遅滞なくお支払いください。

子どもの患者の権利

こども憲章

北九州市立八幡病院小児科では全ての子供とそのご家族に安全・安心の医療を 24 時間 365 日提供するため子供の権利を明確にしてそれを尊重いたします。

- 1 子どもはひとりの人として一大切にされ幸せを望まれ思いやりのある医療を受けることができます。
- 2 子どもは医療の現場で最善の利益を得るように考えてもらう権利を有しています。
- 3 子どもが病気になった時には安心、安全な環境で心や体のケアを受けることができます。
- 4 子どもは入院中親や親の代わりになる人と出来うる限り一緒に過ごすことができます。
- 5 子どもは不当である(虐待、酷使、放任など)と思われる環境にいると判断された場合日常生活、福祉、医療において完全に守られる権利を有しています。
- 6 子どもは病気の事や病気を治す方法を年齢や理解力に合わせた方法で言葉や絵を使って病院スタッフから説明を受けることができます。
- 7 子どもは十分な説明を受けた上で自分の気持ちや希望や意見を言うことができ希望通りにならなかった場合には説明してもらう権利を有しています。
- 8 子どもは病気や障害、貧富格差、能力などを理由に決して差別されず体や心を傷つける(苦痛を伴う検査など)全てのことに説明を受けそこから守られます。
- 9 子どもは自分の病気の事や自分が知られたくないことに関し勝手に誰かに言われない権利があります。
- 10 子どもは病気の時にも遊んだり勉強したり子供らしく生活する権利があります。
- 11 今だけでなく子どもが大人になっても病気や障害について寄り添える医療やケアを行うため継続的な連携を提示されます。

CONTENTS

院長挨拶	3	専門医・資格認定等一覧	
幹部紹介	4	医師紹介	5
病院実績	5	院内センター	_
		救命救急センター 44	4
<u>診療科</u>		小児救急センター 46	6
一般外科	7	小児臨床超音波センター ····· 4 ⁻ 7	7
消化器外科	8	消化器・肝臓病センター 48	8
呼吸器外科	9	災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター 49	9
小児外科	10		
乳腺外科	11	=A, 	
脳神経外科	12	診療支援部	_
整形外科・リハビリテーション科	13	薬剤課	1
形成外科	14	臨床検査技術課 52	2
内科	15	放射線技術課 53	3
呼吸器内科	16	リハビリテーション技術課 54	4
循環器内科	17	栄養管理課 55	5
		臨床工学課 56	6
小児総合医療センター	18		
小児血液・腫瘍科	21	·····································	
小児神経内科	22		_ O
泌尿器科	23	看護部	3
皮膚科	24		
眼科	25	地域医療連携室	
精神科	26	地域医療連携室6	1
婦人科	27		
耳鼻咽喉科	28	病院概要・フロアー図	
放射線科	29	病院概要	_ 1
麻酔科	30	7ロアー図 ······· 66	
救急科	31	УПУ <u>М</u>	J
歯科	32		
二·· 臨床検査科······	33		
COR. 1.125-4-1 1			

院長挨拶



病院長 岡本 好司

地域の先生方におかれましては日頃から当院に、ご指導、ご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

新型コロナ感染症法上の位置付けが5類に変更されて、1年が経過しました。今では社会全体で新型コロナウイルス感染症に対する意識もずいぶんと変わり危機に対する感覚が薄れてきているようです。これまで、2類であった3年間当院は、1度も院内クラスターを起こすことなく、救命救急センターとして、また小児総合医療センターとして、さらに新型コロナ感染症診療拠点病院として活動して参りました。ここで、気が緩んでしまったのか、第9波の大事な時に、当院でも初めて病棟でクラスターを発生してしまい、地域の医療体制を一部崩してしまいました。さすがに1つの病棟ですみ、拡大は免れましたが、胃が痛くなる時期を過ごしました。人間が取り扱いを変更してもウイルスが無くなったわけでも、変わったわけでもありません。新型コロナ感染症はまだ予断を許さない状況は続いており、当院におきましては感染症対策を徹底し継続して診療を行っています。周囲の総合病院が新型コロナの疾患診療に舵を切るなか、当院は公立病院である立場上、一定数の新型コロナ感染症診療の継続を維持して参ります。

さて、令和5年度は、更なる病院の質を向上させるため、病院機能評価3rdG:Ver3.0の受審を職員一丸となって取り組み、無事に認定を受ける事が出来ました。また、新型コロナ感染症の影響による受診控えで患者数が減っていた小児科の患者数は、徐々に戻ってきています。特に当院においては北九州市全体の時間外診療患者数の約54%、深夜帯に限っては約62%もの患者が受診されておられます。救命救急センターの救急車搬送受け入れ数は、令和3年、4年、5年と右肩上がりに増加しており、これらの対応にさらなる工夫や努力が必要となることも今年の目標です。これからも地域の基幹病院として、更なる診療体制の充実に努め、当院の使命であります24時間365日、軽症重症問わず、老若男女すべからく受診を希望されれば、診療を行なうために最大限の応需を行うべく日々オール八幡で対処してまいりたいと考え、一層の努力をしていく所存です。働きかた改革で、職員の健康に留意しながらも、進むべき方向がぶれることなく、社会に貢献出来る、そして市民に信頼される病院を目指してまいります。

今後とも、温かく、そして末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願いいた します。

幹部紹介



副院長 小児総合医療センター長 小児神経内科主任部長 臨床研修センター長

天本 正乃

まさの

あまもと



副院長 診療支援部長 医療情報管理室長

おかべ

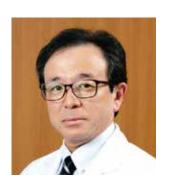


さとし



副院長 形成外科主任部長 医療安全管理室長

田崎 幸博



統括部長 地域医療連携室長 木戸川 秀生 きどがわ ひでお



統括部長内科主任部長末永 章人まえなが あきひと



統括部長高野 健一たかの けんいち

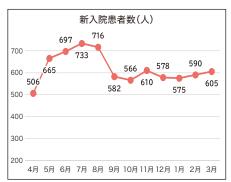


看護部長 **高瀬 真弓** たかせ まゆみ

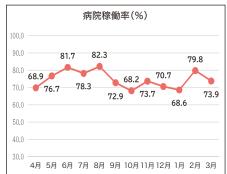


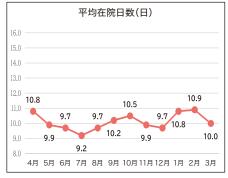
令和5年度 病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新入院患者数(人)	506	665	697	733	716	582	566	610	578	575	590	605
1日平均入院患者数(人)	200.5	228.6	248.9	239.5	251.7	222.1	204.5	221.1	212.1	205.9	239.4	221.6
病院稼働率(%)	68.9	76.7	81.7	78.3	82.3	72.9	68.2	73.7	70.7	68.6	79.8	73.9
平均在院日数(日)	10.8	9.9	9.7	9.2	9.7	10.2	10.5	9.9	9.7	10.8	10.9	10.0
1日平均外来患者数(人)	485.7	544.4	503.9	558.2	509.6	530.2	496.1	516.4	548.8	509.8	522.6	499.7
手術件数(件)	164	164	183	177	203	177	186	200	167	160	178	186
救急搬入患者数(人)	329	391	389	462	447	380	360	395	409	378	367	347
うち入院患者数(人)	129	154	155	158	197	139	158	159	153	183	150	164
紹介患者数(人)	567	687	809	680	614	614	577	579	591	547	636	601
紹介率(%)	85.0	84.5	88.5	91.1	73.0	84.8	85.3	83.9	81.9	90.1	88.9	89.1
逆紹介患者数(人)	821	858	910	912	721	670	624	669	676	613	651	772
逆紹介率(%)	123.0	105.5	99.5	122.2	85.7	92.5	92.3	96.9	93.7	100.9	91.0	114.5



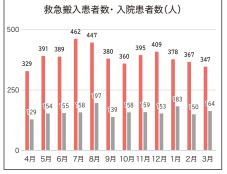




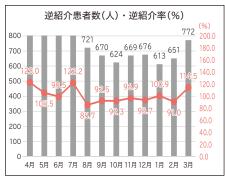














一般外科

外科全体の本年度スタッフは、岡本好司院長、木戸川秀生統括部 長、井上征雄呼吸器外科主任部長、新山新小児外科主任部長、山吉隆 友外科主任部長、野口純也消化器外科主任部長、上原智仁部長、又吉 信貴部長、沖本隆司部長、金野剛医師で構成しております。4月より金 野が新たに赴任し、日々の診療を行なうこととなりました。

一般外科的疾患に加え、悪性疾患に対しては診断から治療、術後治 療として抗癌剤を用いた化学療法なども胸腹部を問わず積極的に行 なっており、日本外科学会、消化器外科学会、呼吸器外科学会、小児外 科学会の専門施設としての維持に加え、がん治療認定医機構におけ る認定研修施設として認可されております。また、様々な救急・外傷 疾患にも対応しており、外傷専門医研修認定施設、腹部救急医学会認 定施設としても機能しております。消化器疾患では上部・下部の診 断的内視鏡検査、消化管出血や腫瘍性狭窄に対する緊急内視鏡治療、 肝胆道系緊急疾患に対する ERCP など消化器内視鏡学会専門施設と しての幅広い治療も行っています。また、一般的な術後経過や敗血 症、感染疾患に対しても厳格な術後管理を徹底しており、外科周術期 感染管理教育施設としても認定され、日々の総合的研鑽による診療 能力向上により皆様のお役に立てるよう日夜努力しております。

取り扱う主な疾患

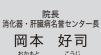
消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、小児外科などの様々な領域 に対し、良性疾患などの一般外科に加え悪性疾患に対する集学的治 療はもちろんのこと、外傷や胸腹部緊急疾患に対する救急外科につ いても対処しております。診断、治療を含む上下部消化器内視鏡・ ERCPやEUS等、他の施設では診られない幅広い分野にわたる研鑽を 行っていることが当科の大きな特徴であり、診療の基盤であります。

令和5年度 診療実績

診療科	主な臓器	主な疾患	2023年		
		食道癌	1		
	A > + -	潰瘍穿孔	1		
	食道・胃・十二指腸	胃癌・腫瘍性疾患	13		
		その他	10		
		大腸癌・腫瘍性疾患	37		
		イレウス	6		
		小腸・大腸穿孔	10		
ᄣᄱᄱᇷᄳ	小腸・大腸・肛門	急性虫垂炎	34		
消化器外科		痔核・痔瘻・肛門疾患	20		
		その他	6		
		胆石・総胆管結石	48		
	肝・胆・膵	肝癌・胆嚢癌・膵癌	15		
		急性膵炎・その他	3		
	ヘルニア		26		
	腹部外傷		2		
	その他		30		
		肺癌	6		
		気胸・嚢胞聖肺疾患	5		
	肺・縦隔	膿胸・縦隔疾患	1		
呼吸器外科		多汗症	0		
で収益が行		その他	4		
	乳腺・甲状腺	乳癌・甲状腺癌	3		
	胸部外傷		0		
	その他		5		
		ヘルニア	26		
14歳以下小児		急性虫垂炎	44		
		新生児・外傷・その他	14		
	計		416		
消化器外科	腹腔鉤	286			
呼吸器外科	胸腔鉤	竟下手術	16		
計					
緊急手術					
消化器手術					
呼吸器手術					
	小児外科		84		

スタッフ紹介







外科部長 智仁 上原



木戸川 秀生

外科部長

信貴

又吉



山吉



隆友





外科部長 沖本 隆司 おきもと



救急科主任部長 救命救急センター長 井上 征雄

呼吸器外科主任部長



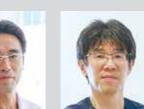
救急科副部長 外科副部長 金野 剛



小児外科主任部長 新山 新



参与 伊藤 重彦



消化器外科主任部長 消化器・肝臓病センター長 野口 純也

消化器外科

消化器外科はスタッフ8名で診療を行っております。スタッフには外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、内視鏡外科学会技術認定医、消化器病学会指導医・専門医、消化器内視鏡学会指導医・専門医、肝胆膵外科学会高度技能指導医、肝臓学会指導医・専門医、救急科指導医・専門医、外傷専門医、癌治療教育医・認定医等がそろっています。

診療科の特徴・強み ……………

当院は救命救急センターがあるため、急性腹症、腹部外傷等を扱う 頻度が高いのが特徴です。麻酔科や手術室の協力のもと、いつでも緊 急手術が可能な体制をとっています。また治療に際しては、患者さん が思い描く最良の結果が得られるよう、各疾患の診療ガイドライン なども参考にしながら科学的根拠に基づいて手術や治療戦略を立て ています。特に悪性疾患の患者さんには、不安を取り除くために、病 気の程度や手術の内容、あるいは抗癌剤治療の内容や予定など、分か り易く説明を行うことを心掛けています。

また、手術室内に血管造影とCT検査が同室で出来るハイブリッドオペレーションルームを設置しています。これにより外傷や出血性疾患に対して、より迅速に対応可能となっています。

消化器外科としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌等の悪性疾患や胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核等の良性疾患に対して積極的に手術に取り組んでいます。鏡視下手術も胆嚢摘出のみならず、胃癌、大腸癌を中心に意欲的に取り組んでおり、現在では消化器に関する手術の8割以上を腹腔鏡下にて手術を行っています。また、消化器内科疾患に対しても当科において柔軟に対応出来る体制をとっています。特に消化器内視鏡学会指導医、専門医のもと、上下部消化管内視鏡検査、胆膵内視鏡検査やそれに関連する処置等も積極的に行っています。



院長 消化器・肝臓病名誉センター長 **岡本 好司**



統括部長 木戸川 秀生



消化器外科主任部長 消化器・肝臓病センター長 野口 純也



外科主任部長 山吉 隆友 やまよし たかとも



_{外科部長} 上原 智仁



 外科部長

 又吉 信貴

 またよし のぶたか



外科部長 **沖本 隆司**



救急科副部長 外科副部長 金野 剛

呼吸器外科

呼吸器外科専攻認定医1名を軸に、消化器外科医や小児外科医と連 ■重症外傷、胸部外傷 携しながら、呼吸器外科症例の手術を行っています。

救命救急センター併設している関係で、自然気胸や急性膿胸など 緊急性を有する疾患が多く、胸部外傷含む多発外傷における、胸腔ド レナージ含めた全身管理も行っています。また、ハイブリッド手術室 を使用して、術中触知困難な末梢肺病変に対するナビゲーション手 術も近年導入しております。乳癌検診目的のマンモグラフィー検診 も年々増加しています。肺がんや縦隔腫瘍に対しても、完全鏡視下手 術も積極的に行っています。

- ■気胸、膿胸など急性期疾患
- ■肺癌、縦隔腫瘍

スタッフ紹介



呼吸器外科主任部長 救急科主任部長 救命救急センター長

井上 征雄

小児外科

当院は、特色の一つに小児救急・小児総合医療センターを掲げています。そのため、北九州市のみならず近隣の市町村を含めた北九州 医療圏の小児医療を担っている施設と言っても過言ではありません。そのため外傷や急性期疾患、虐待など、外科的処置の必要な子ども達が大勢運ばれてきます。小児科医のみならず脳神経外科、形成外科、整形外科、泌尿器科と手を合わせて合同で診療に当たることが必要になります。その中で小児外科は、腹部や胸部の疾患に対応できるように心がけています。

現在常勤の小児外科医は1人のため、他科の様に"小児外科"独立で診療に当たることは困難であり、小児科医と一緒に診断・診療を行い、成人外科医とグループになって手術を行っているのが現状です。

また小児外科は 2019 年 12 月北九州市立八幡病院が新病院に移転するに当たり、正式に標榜できるようになりました。さらに日本小児外科学会教育関連施設に認定されているため、大学へ手術応援を依頼することで高度先進医療手術を提供できる状況にあると考えています。小児外科を目指したいという若手医師の研鑽の場になれるよう、また研修医が小児外科に少しでも興味を持ってもらえる場になるようにする責務があると思います。

一方、当院が現在産科を休診しているために NICU が併設されていません。そのためにどうしても新生児疾患に関しては、他の総合病院の小児外科に頼らざるを得ない状況が続いており、今後の課題として捉えていく必要があります。

小児外科としては、16 歳未満の手術を年間約 100 件前後行っています。2020 年に新型コロナウィルスの感染拡大が始まり、その影響から 100 件を下回る時期がありましたが、2023 年はちょうど 100 件と例年と変わらない平均的な手術件数でした。小児(16 歳未満)急性期疾患として最多は急性虫垂炎であり、平均 50 件程度で2023 年は 44 件でした。全例腹腔鏡下、しかも単孔での手術で完遂しています。その次に多い疾患は外鼠径ヘルニアで、20 件から 30 件程度手術を行っています。

その他には、自然気胸や卵巣嚢腫・卵巣奇形腫、胆道拡張症手術、 化学療法を行うための中心静脈カテーテル挿入術、などの手術症例 があります

16 歳未満の小児に限らず、16 歳以上の重症心身障害児のお子さん達に対する気管切開術、喉頭気管分離術、胃瘻造設術などを行っています。

小児外科は、今後も小児に携わる外科として他科と連携を保ちながら、また教育関連施設として教育にも務めながら安全な診療を心がけていきます。

診療実績(手術・検査数等)

	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
急性虫垂炎	44	57	61	51	44	70	65	69	64	65	56	49	52
鼠径ヘルニア	26	19	27	21	21	28	28	21	30	48	31	16	28
手術合計	100	119	142	93	117	144	129	115	111	123	104	89	91
内視鏡(鎮静下)	21	47	44	50	34	57	44	31	25	7	0	0	0

スタッフ紹介



小児外科主任部長 新山新 しんやま しん

乳腺外科

乳腺外科は常勤医 1 名と非常勤医師 1 名の 2 名体制で診療を行っています。乳腺疾患の診断・治療を幅広く行っており、乳がんと診断された場合は手術療法・薬物療法・放射線療法の組み合わせにより、個々の患者さんに最適の治療を提案いたします。診療には医師のみならず看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリテーション技士など複数の職種によるチーム医療体制を整え患者さんが安心して治療を受けていただけるよう努めています。

- ■乳房に何らかの自覚症状がある(しこり・ひきつれ・分泌物など)
- ■他院で乳がん検診を受診し「要精密検査」「要再検査」と判定された

乳腺疾患の診断はマンモグラフィと乳房超音波検査が基本となります。マンモグラフィ装置はトモシンセシスという 1mm毎の断層撮影が同時に撮れる装置を導入しており、従来の装置では正常乳腺に重なって発見や観察が難しかった病変が診断しやすくなっています。

他院で異常を指摘された場合、検診で要精査となった場合など、上記の検査以外に $CT\cdot MRI$ なども含めて当院で精密検査ができますので遠慮せず受診してください。



従来のマンモグラフィ撮影(2D撮影)に加え、最新のトモシンセシス機能(3Dマンモグラフィ)も搭載されています。撮影は女性技師が担当しています。

| スタッフ紹介 |



院長 消化器・肝臓病名誉センター長 **岡本 好司**



呼吸器外科主任部長 救急科主任部長 救命救急センター長 井 ト 征 雄

井上 征雄

(非常勤医師) 乳腺外科 田上 貴之

脳神経外科

当院の脳神経外科は昭和53年の開設以来、救命救急センターの要として機能してきました。現在においても、北九州の地域医療の一翼を担うため、脳卒中および頭部外傷救急を中心とした救急診療に24時間体制で取り組んでおります。

現在、常勤医師2名と非常勤医師2名が在籍し診療に当たっております。超急性期治療や手術を必要とする脳卒中や、頭部外傷が救急搬送されるため、当院の救命救急センターにおいては、初期対応から診断、治療に至るまで、専門医による診療を実施できる体制を24時間体制で取っております。

診療科の特徴 …………

【一次脳卒中センター(PSC)】

一次脳卒中センターとして24時間365日脳卒中患者を受け入れる体制を整備しています。脳梗塞の超急性期にはrt-PAを用いた血栓溶解療法を施行し、機械的血栓回収の適応がある場合には産業医科大学を始めとした近隣病院と連携して治療を行なっています。

【脳血管外科手術、ハイブリッド手術】

脳卒中の急性期治療から、脳卒中の発症を未然に予防すべく脳血管バイパス手術や脳動脈瘤クリッピング術、内頸動脈内膜剥離術などの脳血管の外科治療を安全に実施できます。高性能のMRIや最新鋭の256列のCT装置、3次元画像解析システムを活用して精度の高い診断、術前シミュレーションを行なうことで、安全で効率的な手術のプランニングを行なっています。さらに脳血管造影検査やCT検査を手術中に実施できるハイブリッド手術室が完備されており、難易度の高い脳血管外科手術を安全に行うことが可能です。

【術中神経モニタリング】

手術中に運動神経や運動中枢、聴力、脳幹のモニタリングを行うことでより安全な手術に努めています。

【片側顔面けいれん・三叉神経痛】

片側の顔面の筋肉が自分の意志とは関係なく(不随意に)ピクピク と動く顔面痙攣の診断、ボトックス治療、根治治療である神経血管減 圧術を行うことができます。

また、発作的な顔面の痛みが特徴である三叉神経痛に対しても薬物 治療、神経血管減圧術を行うことが可能です。

■脳卒中全般: 脳梗塞に対する超急性期再開通療法、脳出血、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄・閉塞症、もやもや病など

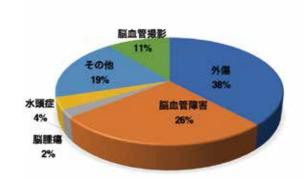
■頭部外傷

■片側顔面痙攣、三叉神経痛

■その他:脳腫瘍、水頭症など

項目	件数
頭部外傷(急性硬膜外血腫・硬膜下血腫、 外傷性脳内血腫慢性硬膜下血腫)	32
脳血管障害(CEA、脳内出血、 STA-MCAバイパス術、脳動脈瘤クリッピング)	22
脳腫瘍	2
水頭症(脳室ドレナージ、VPシャント術)	3
その他(神経血管減圧術、気管切開術など)	16

手術概要 (総件数84)





脳神経外科主任部長 高松 聖史郎



脳神経外科 浦勇 春佳

整形外科・リハビリテーション科

当院は、救命救急センターを併設していることから、重度外傷が多く、また小児救急・小児総合医療センターも併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴といえます。このように当院の整形外科は救急医療とともに発展してきました。今後も、当院の使命である救命救急医療、小児救急医療、災害支援医療の一役割を担いながら、市立病院ならではの地域に根ざした、地域住民に貢献出来る医療を目指し診療を行って参ります。

5名の整形外科専門医が診療にあたっています。関節外科・手外科・外傷の各分野で専門性の高い医療を提供しております。またリハビリテーション科では、PT11名・OT6名・ST3名で、早期からのリハビリテーションを強化的に行っております。

■関節外科

関節外科を専門とする医師が、膝および股関節の変形性関節症に対する関節温存手術(寛骨臼回転骨切り術、高位脛骨骨切り術)や人工関節置換術を行っております。人工股関節置換術は、前外側アプローチによる最小侵襲手術(MIS)をバイオクリーンルームで行っています。軽度の変形性膝関節症の場合は、単顆人工関節置換術を行います。また、麻酔科医の協力のもと、術後の痛みをできるだけ減らすよう努めています。

■手外科

日本手外科学会専門医が、橈骨遠位端骨折や手指・手根骨骨折などの手の外傷治療に加え、リウマチ手の機能再建、キーンベック病などの手根骨壊死、母指CM関節症などの変形性関節症、肘部管症候群や手根管症候群などの絞扼性末梢神経障害、腱鞘炎、デュピュイトラン拘縮、良性の骨軟部腫瘍など幅広い手術を行います。

令和5年度は、679件の手術を行いました。 (手術症例一覧は2023.4.1 ~ 2024.3.31の一年間の集計)

分野	症例・検査・手術	数(年間)
人工関節	人工膝関節置換術	37
	人工股関節置換術	33
	人工骨頭挿入術(股)	52
	脛骨近位骨切り術	2
腫瘍	四肢軟部腫瘍摘出術	2
スポーツ	アキレス腱断裂手術	1
	関節鏡下半月板縫合術	1
	臼蓋形成手術	1
	関節滑膜切除術(肩、股、膝)	1
	関節鏡視下関節滑膜切除術(肩、股、膝、胸鎖、肘、手、足、肩鎖、指)	1
手外科	手根管開放術	9
	神経移行術	3
	腱鞘切開術(関節鏡下によるものを含む)	24
	腱縫合術	2
	腱移行術	2
	腱移植術	3
	腱剥離術(関節鏡下によるものを含む)	1
	靭帯断裂形成手術 指(手、足)その他靭帯	1
	関節滑膜切除術(手、肘、指)	2
	デユプイトレン拘縮手術	1
	神経縫合術	2
	関節形成術 (肩、股、膝、胸鎖、肘、手、足、肩鎖、指)	2
外傷・その他	骨折経皮的鋼線刺入固定術	42
	骨折観血的手術	219
	骨内異物(挿入物を含む)除去術	108
	偽関節手術	1
	変形治癒骨折矯正手術	1
	骨掻爬術	2
	化膿性又は結核性関節炎掻爬術	1
	関節脱臼観血的整復術	6
	関節内骨折観血的手術	29
	四肢切断術	1
	観血的関節授動術(肩、股、膝、胸鎖、肘、手、足、肩鎖、指)	2
	観血的関節固定術(肩、股、膝、胸鎖、肘、手、足、肩鎖、指)	6
上記以外	創傷処理	33
	一時的創外固定骨折治療術	9
	骨移植術	11
	関節脱臼観血的整復術	6
	関節脱臼非観血的整復術	2
	股関節内転筋切離術	3
	デブリードマン	1
	皮下腫瘍摘出術	4
	腐骨摘出術	2
	筋膜切離術	1
	腱切離術	1
	腱滑膜切除術	1
	骨部分切除術	1
	骨全摘術	1
	足底異物摘出術	1
Δ=1	静脈形成術、吻合術	1 679
合計		0/9

スタッフ紹介



副院長 **岡部 聡**



整形外科主任部長 リハビリテーション科主任部長 目買 邦隆



整形外科部長 栗之丸 直朗





整形外科副部長 大久保 友貴

形成外科

当院形成外科は、北九州市の形成外科としては最も早い昭和50年に開設され、顔面、四肢をはじめとした体表面の形態異常を整容的、機能的に改善する治療を行っております。

常勤医は4名(そのうち形成外科専門医2名)で診療を行っています。 当科では形成外科全般にわたる診療を行っていますが、とりわけ 口唇口蓋治療においては全国的にみても症例数が多く、乳児の初期 手術から中高年の2次手術まで対応できます。また、当院の救急や各 科と連携し、顔面骨骨折を含む顔面外傷や、切断指再接合等の手の外 傷、熱傷等を数多く担当しています。形成外科の専門的な対応を要す る外傷や緊急を要する外傷などの場合は、平日時間外や休日でも対 応しております。

他施設から紹介をいただくことが多い疾患としては、口唇口蓋裂や多指症・合指症などの先天性形態異常、各種の皮膚皮下腫瘍、眼瞼下垂、褥瘡、難治性潰瘍などがあげられます。

2020年より導入したVbeam II レーザーを、毛細血管奇形(単純性血管腫)、乳児血管腫(苺状血管腫)、毛細血管拡張症といった皮膚良性血管病変の治療は件数が伸びてきました。小児科による内服治療との連携も行っています。小児、成人を問わず治療ができますので、お問い合わせください。

口唇口蓋裂は、乳幼児期から青年期まで、各成長段階に必要な手術や治療を行ってきていますが、中高年の患者さんで旧来の手術法による変形が残っている方に、現在の新しい手術方法で整容的機能的な修正を行い、長年の悩みを解消する効果が得られています。里帰り出産などで最初の口唇裂手術だけを希望される方や、すでに他院で手術を受けられており修正を希望される方も対応いたします。

取り扱う主な疾患

①表在性先天異常

口唇口蓋裂、眼瞼下垂、眼瞼内反症、小耳症、副耳、埋没耳などの顔面の形態異常、多指症、合指症などの四肢形態異常、臍ヘルニアなどの体幹部の形態異常に対する治療を行っています。

②皮膚、皮下、軟部腫瘍(良性、悪性)

皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍(良性、悪性)に対して手術やレーザーを用いた治療を行います。組織欠損のサイズや部位により、必要に応じて再建手術を行うことがあります。

③顔面、手の外傷

顔面の皮膚、軟部組織損傷、骨折に対する処置、手術を行っています。また手指の外傷(骨折、血管、神経、腱損傷)に対する外科的処置、再建手術を行っています。また外傷や熱傷によって生じた傷跡や瘢痕拘縮に対して手術等の治療を行うことで整容的、機能的に改善します。

4熱傷

小児を含めた熱傷患者に対して加療を行っています。軟膏や創傷被覆材を用いた保存的加療や、必要に応じて手術治療(植皮術等)を行います。

⑤難治性潰瘍

糖尿病患者の足潰瘍や下肢の虚血による潰瘍、静脈の機能不全によって起こる、うっ滞性皮膚潰瘍に対して治療を行っています。また褥瘡に対しても、軟膏療法、持続陰圧吸引療法を含めた保存的加療、皮弁手術を含めた外科的治療を行っています。

⑥巻き爪治療(自費診療)

爪に専用の矯正装具である巻き爪マイスター®を装着する巻き爪 治療を行っています。自費診療になりますが、巻き爪による痛みに悩 む患者さんが楽になり通って来られています。

⑦耳の矯正治療(自費診療)

生まれつきの耳の形態異常(折れ耳・絞扼耳・埋没耳など)に対して専用のイヤースプリントを用いた矯正治療を行っています。

8 その他

足趾の爪が食い込む陥入爪、加齢により目が開きにくくなる眼瞼下垂の治療を行っています。また、Qスイッチルビーレーザーによる色素斑の治療、炭酸ガスレーザーや高周波ラジオ波メスを用いた小手術を行っています。

まぶたがひきつる眼瞼痙攣、顔の片側がびくびくする顔面けいれんに対してボトックス注射による治療を行っています。

ワキ汗(腋窩多汗症)にもボトックス注射による治療を行います。 匂いが問題となる腋臭症(わきが)に対しては手術を行います。

令和5年度 診療実績(手術・検査数等)

2023年1月~12月手術件数

	件数											
	7	\院手征	衍	5								
区分	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	計					
1. 外傷	99	24	83		50	662	918					
Ⅱ. 先天異常	164		7			4	175					
Ⅲ. 腫瘍	73	5	42	1	8	229	358					
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	6		10			15	31					
V. 難治性潰瘍	12	1	19			8	40					
VI. 炎症·変性疾患	21	2	17		9	32	81					
VII. 美容(手術)							0					
VIII. その他	2		26			2	30					
計	377	32	204	1	67	952	1,633					



副院長 形成外科主任部長 田崎幸博



形成外科部長 宗 雅



形成外科副部長 西野 優実



形成外科副部長 浅部 浩明

内科

外来は消化器・神経・腎臓・甲状腺・一般内科外来を設置しています。多くは非常勤医師で対応しておりますが、近隣の先生方からのご紹介に極力お応えできるよう、スタッフー同努力してまいります。

また救命救急センターを併設しており、できる限り救急患者の受け入れを行っています。これからも、地域との連携を深め質の高い 医療を提供できるよう頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

なお呼吸器内科は令和5年10月より独立標榜いたしましたので、 別ページでご紹介いたします。

診療科の特徴 ………

主な検査・治療

■上下部消化管内視鏡

水曜日と木曜日の午後に非常勤医師により下部消化管検査をおこなっています。上部消化管内視鏡は月曜日から金曜日まで午前中に非常勤医師や消化器外科医師によりおこなっています。また吐下血などの緊急内視鏡については、ほぼいつでも対応できるようにしています。

■超音波検査

月曜日に、腹部エコー全般、体表エコー(頚部耳鼻科領域、甲状腺・副甲状腺、体表皮膚科領域)を行っています。非侵襲的な検査の代表です。小児から高齢の患者まで、状態の悪い場合も含めて検査できます。また、北九州の超音波検査の普及や高度化にも力を入れております。各医院でのスタッフ養成についてもお尋ね下さい。

■神経伝導速度・筋電図

しびれや筋萎縮などの原因を調べるために、電気刺激を用いて神経 のどこが障害されているかを調べることができます。手根管症候群 や肘部管症候群などの末梢神経障害が良い適応です。また、筋肉に直 接針を刺して筋萎縮の原因を調べる針筋電図も行っています。

■消化器内科

非常勤医8名にて消化器疾患の外来診療(平日午前中)と上下部消化管内視鏡検査をおこなっています。腹部超音波検査、腹部CT検査など適宜施行し、診断・加療を行っています。

■甲状腺

非常勤医師1名により、バセドウ病等の甲状腺疾患の外来診療を毎週月曜日に行っています。

■脳神経内科

中枢神経(脳・脊髄)から、末梢神経、筋肉に至るさまざまな病気を対象にしています。頭痛、しびれ、ふるえ、めまい、筋力低下などの診断・治療のほか、神経救急疾患(脳血管障害、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群など)や、パーキンソン病をはじめとした神経難病についても診療に当たっています。

■腎臓内科

月、火、木の週3回腎臓内科の外来診療を行っています。

検診などで血尿や蛋白尿などの尿異常や、糖尿病性腎症、薬剤性腎障害、腎実質性高血圧、高尿酸血症など、腎臓病の保存期を中心に治療を行っています。当院では維持透析は行っておりませんので、末期腎不全に至った患者様は適切な医療機関へご紹介いたします。また、重症例や腎生検診断が必要な場合、産業医科大学腎臓内科と連携していますのでご紹介いたします。腎生検診断後の治療継続は、当院でも副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤などによる治療が可能ですのでご紹介ください。

■膠原病

非常勤医師 1 名で毎週金曜日に外来診療を行っています。関節リウマチをはじめとした膠原病を広く診療しています。多系統領域にまたがる疾患ですので、当院の複数の専門科と協力しながら診療を行っています。重症例は、産業医大第一内科と連携して治療を行います。膠原病の病初期の判断は困難なことが多いのですが、この時期の治療の重要性も確認されています。疑わしい症例は、ご遠慮なくご紹介下さい。



統括部長 内科主任部長 末永 章人



内科 宮崎 三枝子



内科 **平野 昭和**

呼吸器内科

当科では、すべての患者様に「呼吸器内科というサブスペシャリティを持つ"内科医"として、可能な限り幅広く、そして奥深く診療する」ことを目標に診療を行っております。常勤医3名、非常勤医師6名体制で診療を行っており、外来は月曜日から金曜日の毎日午前に内科一般外来及び呼吸器専門外来を開設しております。紹介患者さんに付きましては、早急に対応する為に、事前に紹介状を頂ければ幸いです。また当院は救命救急センターを併設しておりますので、内科及び呼吸器緊急疾患に対して、24時間対応できる体制を整えております。呼吸器疾患は生命にかかわる場面が多く、迅速に対応することが必要とされますので、緊急の際はお気兼ねなくお電話を頂ければ対応致します。北九州及び八幡地域の患者さん・医療機関の先生方の信用・信頼を得られるよう、一同力を合わせより良い医療を提供すべく努力を積み重ねてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

当院の救急病院としての特色を活かし、新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染症・気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)・間質性肺炎を中心に急性呼吸不全及び慢性呼吸不全の急性増悪などの救急患者さんに対応しています。

肺癌診療に関しては、気管支鏡専門医の下、肺生検、縦隔リンパ節生検、胸腔鏡検査による肺癌診断を行なうと共に、抗がん剤治療・外科的治療に関しても積極的に取り組んでおります。放射線治療など当院で提供困難な治療が必要な場合は、北九州市立医療センターと連携しておりますのでご紹介いたします。

重症気管支喘息に対しては生物学的製剤による治療を行うと共に、新たな治療法として保険収載された気管支熱形成術も行っております。北九州市内で導入している施設は当院のみですが、本年度で製造終了になり、今後施行出来なくなります。重症喘息でお悩みの患者様がおりましたら、早めにご紹介頂ければ幸いです。

慢性期管理では、慢性呼吸不全に対しての在宅酸素療法の導入に加えて、薬剤師・看護師・理学作業言語療法士・MSWを含めた多職種連携による外来・入院における呼吸器リハビリや、近年では呼吸器診療に欠かすことのできない吸入薬に対する患者指導も積極的に行っています。また睡眠時無呼吸症候群に対しての終夜睡眠ポリグラフ検査及びCPAP療法の導入にも対応しております。当院では急性期から慢性期まで幅広い呼吸器診療を心がけています。

主な検査

<気管支鏡検査>

気管支内視鏡関連認定施設として、気管・気管支病変及び肺内病変に対して、年間100例程度の気管支鏡検査を行っております。ほぼ全例鎮静薬の投与下に検査を行うことによって苦痛をできる限り与えないように心がけています。原則1泊2日の入院で検査を行っています。

主に腫瘍性病変に対しての経気管支肺生検・擦過細胞診、びまん性肺疾患に対しての気管支肺胞洗浄検査などを行っています。また適応症例に対しての気管支充填剤(EWS)の留置なども行っており幅広い疾患に対応しています。オリンパス社製の最新ビデオスコープ(290シリーズ)及び超音波システム(ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法)が導入されており、優れた診断精度での検査が提供できるよう努めています。コンベックス

走査式超音波気管支鏡(BF-UC290F)を導入したことで、縦隔リンパ節を含めた気管支周辺組織の超音波気管支鏡下吸引針生検(EBUS-TBNA)が実施可能となり、気管支鏡検査における適応疾患がさらに拡大しています。 <局所麻酔下胸腔鏡検査>

一般的な胸水検査では診断をつけることが出来ない胸水に対して局所麻酔下での胸腔鏡検査を施行しています。胸腔内の観察及び壁側胸膜の生検・細胞診を行うことにより原因診断を行っています。主に癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの診断に有用です。

<気管支熱形成術(気管支サーモプラスティ)>

重症気管支喘息の治療を目的とした気管支鏡下の手技です。高用量の吸入ステロイド薬及び長時間作用型 β 2刺激薬の投与下でも喘息症状がコントロール困難な重症患者に対して症状緩和を目的として行います。

気管支鏡を通して電極付きカテーテルを気管支内に誘導し、高周波により気管支を65度に温めます。気管支全体を3つのブロックに分けて3週間以上の間隔を空けて計3回の入院治療により処置を行います。加熱処置により気管支平滑筋量を減少させ気管支の収縮を抑制することで気管支喘息発作が減少するとされています。少なくとも5年間の治療効果の持続が期待できます。

<終夜睡眠ポリグラフ検査>

毎週水曜日に1泊2日の個室入院により終夜睡眠ポリグラフ検査を行っています。睡眠時無呼吸などの睡眠障害に対する精密検査を行います。検査目的の紹介は内科外来にて随時受け付けています。

- ■呼吸器感染症(新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、急性気管支炎、市中肺炎、医療・介護関連肺炎、院内肺炎、肺膿瘍、肺結核、肺非結核性抗酸菌症、肺真菌症)
- ■慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎)
- ■アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、サルコイドーシス、ANCA関連血管炎、過敏性肺炎、好酸球性肺炎)
- ■間質性肺疾患(特発性間質性肺炎:特発性肺線維症、特発性非特異性間質性肺炎、特発性器質化肺炎など・膠原病関連間質性肺炎・薬剤性肺炎)
- ■肺腫瘍(原発性肺癌、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍、胸膜中皮腫、縦隔腫瘍)
- ■胸膜疾患(胸膜炎、胸水、膿胸、気胸)
- ■慢性咳嗽(咳喘息、アトピー咳嗽、後鼻漏、喉頭アレルギー)
- ■呼吸不全(1型・2型呼吸不全、結核後遺症、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧 換気)
- ■職業性肺疾患(じん肺、石綿肺)
- ■睡眠時無呼吸症候群

など

令和5年度 診療実績 …………

▼令和5年度呼吸器内科に係る診療実績

項目	実績数(名)	1日平均患者数
外来患者数	3,708	16.6
入院患者延べ数	8,744	24.0

スタッフ紹介



呼吸器内科主任部長 森 雄亮 もり ゆうすけ



呼吸器内科副部長 **久保 直登**



呼吸器内科 遠藤 美有

循環器内科

当科では、すべての循環器疾患において「患者さんに科学的根拠に基づく質の高い最善の医療を安全に提供する」ことを第一とし診療を行っております。当院には救命救急センターが併設されており、24時間救急診療が可能な体制を整えております。北九州地域の患者さん・医療機関の先生方のニーズに応え、信頼を得られるよう努力して参ります。

令和4年度から常勤医3名(全員循環器専門医)の診療体制となり、一時対応が困難となっておりました狭心症や急性心筋梗塞、末梢血管に対するカテーテル検査・治療や徐脈性不整脈に対するペースメーカー手術を再開しています。また令和5年5月の新型コロナウイルス感染症5類移行後は病床利用制限も緩和され、集中治療室(ICU)で循環器救急症例の受け入れが可能となっています。

令和6年5月からフィリップス社のバイプレーン血管撮影装置 (Azurion2.2(L7))が新規導入され、造影剤と被ばく線量の低減(従来のシングルプレーン装置と比較すると造影剤は半量、被ばく線量は4分の1程度まで減少)に効果を発揮しています。高齢の患者さんは腎機能障害を合併している方が多く、新規血管撮影装置の恩恵を被ることが期待されます。胸痛や労作時息切れ、突然の呼吸困難など、循環器疾患が疑われる患者さんがおられましたら、是非ご紹介賜りますようよろしくお願い申し上げます。

- ■心不全(急性・慢性)
- ■冠動脈疾患(狭心症、急性・陳旧性心筋梗塞)
- ■心筋疾患(肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症(心アミロイ ドーシス、心サルコイドーシス、ファブリー病))
- ■弁膜症(大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽 弁閉鎖不全症)
- ■不整脈(心房細動、徐脈性・頻脈性不整脈、期外収縮)
- ■大動脈疾患(胸部・腹部大動脈瘤、大動脈解離)
- ■末梢動・静脈疾患(閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄症、深部静脈血 栓症)
- ■肺循環疾患(急性肺血栓塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症)
- ■高血圧症(二次性高血圧症)や脂質異常症(家族性高コレステロール血症)

など

■期間:令和5年度(4月~3月)

項目	総数
外来受診総数(1日あたり平均数)	2,893 (11.9)
入院総数(1日あたり平均数)	6,214 (17.0)
心不全入院患者数	201

項目	総数
心臓カテーテル検査	185
冠動脈カテーテル治療 () は緊急症例	84 (23)
ペースメーカー植え込み術()は電池交換術	26 (9)
カテーテルアブレーション	1
植え込み型心電計	4
末梢動脈カテーテル治療	3
腎動脈ステント治療	2
心筋生検	2
下大静脈フィルター留置	7

項目	総単位数
入院心臓リハビリ件数(1月あたり単位数)	3,176 (265)
外来心臓リハビリ件数(1月あたり単位数)	602 (50)
心臓リハビリ総件数(1月あたり単位数)	3,778 (315)



循環器内科主任部長 津田 有輝



循環器内科部長 岩垣 端礼



循環器内科部長中村 圭吾

小児総合医療センター

当センターは平日日中の一般診療及び各種小児専門医療を行う地域の、福岡県北九州地域、および近隣市町村地区における小児救急センターとして位置づけられています。北九州地区の広域の子どものあらゆる救急医療に対応するため、あらゆる他科と協力体制を有し、1次から3次までの救急患者を24時間365日受け入れる体制を維持しています。児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院でもあり、児童虐待の早期発見・早期加入と予防可能な事故の減少を目指します。

小児総合医療センターの特徴

①県内随一の豊富な症例により経験を積んだ子どもの総合医が診療

②多彩な専門領域による迅速な診断と最良の治療の提供

臨床超音波. 血液・腫瘍. 神経. 遺伝. 発達

膠原病,循環器,アレルギー,腎臓他

③24時間365日対応可能な小児救急センター

全ての子どもを受け入れます。

④虐待拠点病院としての役割と地域支援体制の充実

多機関連携による家族と子ども支援委員会の活動

■小児一般

各種感染症, 腸重積症, 急性虫垂炎, 熱性けいれん, 身体各部の外傷など ■アレルギー

食物アレルギー, 気管支喘息, アトピー性皮膚炎, アレルギー性鼻炎, 慢性蕁麻疹, 薬剤アレルギーなど

■腎臓

検尿異常, ネフローゼ症候群, 腎炎, 尿路感染症, 先天性腎尿路異常, 高血圧症, 糖尿病など

■膠原病

不明熱, 関節炎など

■循環器

川崎病、不整脈、先天性心疾患(カテーテル治療や手術が必要な症例は他院へ紹介しております)、心筋症など

■内分泌

成長障害, 甲状腺疾患など

令和5年度 診療実績(手術・検査数等)

小児科専門医数	20名
認定指導医数	16名
他施設からの受け入れ研修医数	20名
産業医科大学	1名
大手町病院	5名
製鉄記念八幡病院	9名
戸畑共立病院	1名
福岡新水巻病院	4名
小児科年間外来数	52,141名(2023年度)
小児科年間入院数	3,253名(2023年度)
夜間・休日受診者数	29,182人
夜間・休日入院者数	1,268人
救急車台数	1,368台

小児総合医療センター



副院長 小児総合医療センター長 小児神経内科主任部長 天本 正乃



統括部長 高野健一



小児科主任部長 石橋 紳作



小児科主任部長 **今村 徳夫** いまむら のりお



小児血液・腫瘍 内科主任部長 安井 昌博 ゃすい まさひる



小児科主任部長 小児血液・腫瘍内科部長 佐藤 哲司



小児科主任部長 **小林 匡** _{とばやし まさし}



小児血液・腫瘍内科部長 稲垣 二郎 いながき じろう



小児血液・腫瘍内科部長 松石 登志哉 まついし としゃ



小児科部長 **富田 一郎** とみた いちろう



小児科部長 小児救急センター長 福政 宏司 ふくまさ ひろし



小児神経内科部長 池田 妙 いけだ たえ



小児科部長 小野 佳代 おの かよ



小児科部長 小児臨床超音波センター長 **小野 友輔**



小児科部長 長嶺 伸治 ばがみね しんじ



小児科部長 **八坂 龍広**



小児神経内科部長 福井 香織



小児科部長 剛 間まき たけし



小児科部長 中野 珠菜 ^{なかの たまな}



小児科部長 中野 慎也 _{なかの しんや}



小児科部長 森吉 研輔 もりよし けんずけ



小児科部長 **藤崎 徹** ふじさき とおる



小児神経内科 **村上 知恵** むらかみ ちえ



小児科 **富田 芳江** とみた よしえ



小児科専攻医 **竹井 文哉** たけい ふみや



小児科専攻医 **梶原 悠** かじわら ゆたか



小児科専攻医 **莫根 良太** あぐね りょうた



小児科専攻医 矢崎 陽 やざぎ あかり

小児血液・腫瘍内科

当院小児科では、2018年4月に小児がんを専門的に診療する、小児血液腫瘍・造血細胞移植センターを立ち上げ、2021年4月より、小児血液・腫瘍内科を標榜しました。2020年から世界を席巻した新型コロナウイルス感染禍の影響を受け、新規診断患者数が伸び悩むことになりましたが、そのような中で当科は日本小児血液・がん学会および日本血液学会の専門医研修施設として認定されており、同学会や日本造血・免疫細胞療法学会(旧:日本造血細胞移植学会)の専門医や指導医資格をもつ3名の小児科医師を中心に診療を行っています。また、北九州市では2施設しかない日本輸血・細胞治療学会の認定医制度指定施設のひとつとしても認定されており、2022年12月には骨髄バンクドナーからの骨髄採取も可能となっています。2021年には本院で初めての血縁者間骨髄移植も施行し、現在は非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植および臍帯血移植の施設認定も受け、これらの造血細胞移植も可能となっています。

小児がんは致死的疾患であると同時に希少疾患であり、治療法に関しては標準治療として確立されている治療法や患者さんへの地益が大きいと考えられる臨床試験での治療など、疾患の種類や病期によって最も適切な治療法を選択しています。上述のような再発・難治性の患者さんに対しては、適応を慎重に判断したうえで造血細胞移植を行っています。

小児がんの患者さんは、抗がん剤や免疫抑制剤の治療により容易に免疫不全状態に陥り、重要感染症を発症するリスクを負っていますが、当センターでは小児科病棟内の10床の個室からなる清浄度の高いprotective environment(防護環境、慣例的にクリーンエリアと呼んでいます)内で化学療法を行っています。そのうち2床は、白血球数や免疫機能が極度に低下する造血細胞移植に対応した規格になっています。

小児がんの治療は長期にわたり、様々な身体的・精神的苦痛や社会的困難が伴います。当科では、患者さんとご家族の負担を少しでも軽減できるよう、医師、看護師だけではなく薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、社会福祉士、保育士、臨床心理士、子ども療養支援士、院内学級講師、その他の多くのスタッフが協力してチーム医療を行っています。

- ●2018年04月:「日本小児血液・がん学会専門医研修施設」に認定
- ●2018年12月:新病院小児科病棟内に protective environment(通称クリーンエリア)開設
- ●2019年06月:第1例目の造血細胞移植(血縁者間末梢血幹細胞移植)施行
- ■2020年07月:「移植後長期フォローアップ外来」の開始(看護部による)
- ●2020年10月:「JCCG 小児固形腫瘍観察研究」参加
- ●2021年04月:北九州市立病院機構より「小児血液・腫瘍内科(血液・腫瘍 科)」標榜の認可
- ●2021年04月:「日本血液学会専門医研修施設」および「日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設」に認定
- ●2022年12月:「日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取施設」に認定
- ●2023年03月:「日本骨髄バンクおよび日本臍帯血バンクを介した非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植施設」に認定

今後の展望

2022年12月末に日本骨髄バンクの非血縁者間骨髄採取施設の認定を受けました。また日本骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植、および臍帯血バンクを介した非血縁者間臍帯血移植の施設認定も受けることができたため、これらの移植が可能となり難治性血液疾患の患者への治療選択肢が拡がっています。今後は症例数の蓄積が認定に必要でありますが、非血縁者間末梢血幹細胞採取施設の認定を目指していきたいと考えています。

※小児血液腫瘍・造血細胞移植に関わる実績

2019年度は、14例の新規患者さんを含む19人の患者さんに化学療法を行いました。そのうち、3人の再発・難治性の白血病患者さんに血縁ドナーから末梢血幹細胞移植を行いました。

2021年度は、血縁ドナーの母親から HLA半合致骨髄移植を当院で初めて行い、2023年度にも行いました。

年度	化学療法、免疫抑制療法、手術を行った新規診断症	E例数
2017年	・急性リンパ性白血病	1例
2017年	・急性骨髄性白血病	2例
	・急性リンパ性白血病	3例
2018年	・悪性リンパ腫	1例
	・再生不良性貧血	1例
	・急性リンパ性白血病	8例
	・急性骨髄性白血病	1例
2019年	・固形腫瘍(腎芽腫・卵黄嚢腫瘍・未熟奇形腫)	3例
	・ランゲルハンス細胞組織球症	1例
	・再生不良性貧血	1例
	・急性リンパ性白血病	1例
2020年	・急性骨髄性白血病	1例
	・固形腫瘍(神経芽腫・成熟奇形腫)	2例
	・急性リンパ性白血病	2例
	・固形腫瘍(膵充実性偽乳頭状腫瘍・未熟奇形腫)	2例
2021年		1例
20214	・ランゲルハンス細胞組織球症	1例
	・血友病A・B	4例
	・フォン・ウィルブランド病	1例
	・固形腫瘍(滑膜肉腫・卵黄嚢腫瘍)	2例
2022年	・ランゲルハンス細胞組織球症	1例
2022-	・急性リンパ性白血病	1例
	・フォン・ウィルブランド病	1例
	· 固形腫瘍(卵黄嚢腫瘍)	1例
2023年	・急性リンパ性白血病	4例
	・フォン・ウィルブランド病	1例

スタッフ紹介



小児血液・腫瘍内科主任部長安井 昌博



小児血液・腫瘍内科部長 **稲垣 二郎** いながき じろう



小児血液·腫瘍内科部長 松石 登志哉



小児科主任部長 小児血液・腫瘍内科部長 佐藤 哲司

小児神経内科

小児神経内科はてんかんを始めとする発作性疾患や筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症などの神経筋疾患、また発達遅滞や自律神経失調症などにもかかわり、子どもの発達に関わる広い範囲の医療を提供する分野です。また、脳炎・脳症や先天性代謝異常症の急性発症など、急性疾患にも対応することも多く、急性期から慢性期に対応することが求められます。現在、当院では小児神経専門医、臨床遺伝専門医も揃い、幅広い神経疾患に対応することが可能です。

近年、遺伝的な評価やカウンセリングが必要とされる疾患が多くなりましたが、当院では臨床遺伝専門医による診療が可能となり、侵襲的な検査の前に遺伝的な診断も選択肢として相談できる体制で診療を行っています。

また、当院の小児救急は1次から3次まで対応しており、脳炎・脳症も初発時から集中管理まで一貫して対応が可能です。2022年10月以降2024年3月までの間で、当院で24例の脳炎脳症を新規に診断・治療しており、抗NMDA受容体脳炎や抗MOG抗体関連疾患などの自己免疫性脳炎や難治頻回部分発作重積型急性脳炎など、非常に難治なけいれんに対してもビデオ脳波でモニタリングをしながら集中治療を行っています。ビデオ脳波は年間約50件程度施行しており、てんかん性脳症や不随意運動の評価も可能です。

他には、誘発電位での評価も行っており、麻痺や感覚障害に対して の伝導速度検査や、重症筋無力症の診断・治療効果判定としての反 復筋電図も小児神経内科で検査を施行しています。

なお、当院は小児神経専門医認定施設として認定されており、脳波 や誘発電位は研修中に手技取得可能で、地域に貢献できる小児神経 科医の育成に取り組んでいます。

- ①発達障害(精神遅滞・自閉症・ADHD・学習障害など)
- ②発作性疾患(主にてんかん、熱性けいれんなど)
- ③先天代謝異常・染色体異常
- ④脳性麻痺
- ⑤中枢神経感染症(脳炎・脳症・髄膜炎など)
- ⑥筋疾患(ジストロフィー・脊髄性筋萎縮症他)
- ⑦頭部外傷
- ⑧脊髄疾患・末梢神経疾患
- ⑨脳血管障害

診療実績

		令和4年度	令和5年度
	小脳炎		1
	FIRES		1
	NMOSD		
脳炎	抗NMDA受容体脳炎		2
	MOGAD		1
	自己免疫性脳炎	2	2
	ウイルス性脳炎	1	
	AESD	1	2
	MEEX	1	2
脳症	MERS	1	3
	PRES		1
	その他	1	2
	合計		17

※統計:令和4年10月以降

※表中の略語

FIRES	Febrile infection related epilepsy syndrome
NMOSD	neuromyelitis optica spectrum disorders
NMDA	N-methyl-D-aspartate
MOGAD	Myelin Oligodendrocyte Glycoprotein Antibody-Associated Disease
AESD	acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion
MEEX	clinically mild encephalopathy associated with excitotoxicity
MERS	clinically mild encephalitis/encephalopathy with a reversible splenial lesion
PRES	posterior reversible encephalopathy syndrome

項目	てんかん新規患者数
令和5年度	86名
令和4年度	104名
令和3年度	84名



副院長 小児神経内科主任部長 天本 正乃 ぁまもと まさの



小児神経内科部長 池田 妙



小児神経内科部長 福井 香織 ふくい かおり



小児神経内科 **村上 知恵**

泌尿器科

泌尿器科悪性腫瘍、良性疾患に対する診療を行っています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行えるよう心がけております。また、罹患頻度の高い尿路結石に対しては、迅速に手術治療を行い、できるだけ早く患者様の苦痛を和らげるよう努めています。当院の特色である小児診療も積極的に行っており、小児泌尿器科領域での外科手術を施行しています。泌尿器科救急疾患にも24時間迅速に対応します。

2019年4月より、常勤の泌尿器科医が1名増員となり、2名体制となりました。より柔軟な対応が可能となり、手術件数も順調に増加しています。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等) ……………

■内視鏡的デフラックス注入療法

膀胱尿管逆流症に対する新しい手術として、内視鏡的デフラックス注入療法を2021年6月より開始しました。少しずつ症例が増え、20例ほど施行致しましたが、全例良好な治療経過です。症例数は福岡県でもトップクラスです。従来の開腹手術と比較し低侵襲な手術であり、患者様の満足度も高いと考えます。

■尿路結石治療

尿路結石に対して、ESWL(体外衝撃波結石破砕術)とTUL(経尿道的結石砕石術)を積極的に行っています。できるだけお待たせすることなく、迅速に行うよう心がけています。

■前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療

前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療(223-Ra(商品名:ゾーフィゴ))を行っています。福岡県内でも上位の症例数を経験しております。

取り扱う主な疾患

■泌尿器科悪性疾患

腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎癌、等

■泌尿器科良性疾患

尿路結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿路感染症、等

■小児泌尿器疾患

停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎、等

■泌尿器救急疾患

尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉・膀胱タンポナーデ、精 巣捻転、嵌頓包茎、等

外来患者数	3,577人	
入院患者数	303人	
(平均入院患者数11.0人/日、平均在院日数 12.2日)		
手術件数	200件	
ESWL件数	105例	

スタッフ紹介



※ 尿器科主任部長 松本 博臣



泌尿器科部長 渡邉 舟貴

皮膚科

月曜から金曜までの週5日、午前8時30分から午前11時までが受付時間となります。毎日二診体制で行っており、患者さんの待ち時間の短縮に努めています。

紹介患者さんにつきましては、月火金は鶴田、水は村尾(非常勤)もしくは古河、木は古河が担当いたします(担当医が変更となる場合があります)。紹介状をご持参いただければ予約なしでも診療可能です。Faxや電話で事前にご予約いただいた場合は、来院前に事務手続きや前治療の把握等を行い、優先して診療を行うようにしております。

皮膚科で大切なのは、「視診(ししん:皮膚を観察し性状を把握する診察方法です。)」をしっかりと行うことだと考えています。当科では、基本となる問診および視診を十分に行い、必要に応じて皮膚生検(ひふせいけん:病変の一部を採取し病理検査を行う)や血液検査、画像検査などの各種検査を提案し、なるべく正確な診断が得られるように努力しています。また必要に応じて他科の医師と緊密に連携し、質の高い医療を行っていくことを心がけています。

当院は乾癬やアトピー性皮膚炎などに対する生物学的製剤使用承認施設です。近年、乾癬やアトピー性皮膚炎には生物学的製剤を含めた様々な治療法があり、一人ひとりの重症度、生活への影響を考慮して適切な治療法を提案するようにしています。生物学的製剤の中には在宅自己注射が可能な製剤があり、当科では医師と看護師による注射指導に力を入れています。調剤薬局とも連携をとり患者さんが安心して治療ができるようサポートしています。

最新型の限局型光線機器(エキシマライト)を導入し、乾癬や掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、白斑、円形脱毛症等で施行しています。小児の患者さんにも十分な説明と同意を得た上で安全に配慮して実施しています。

自費診療として、SADBE(サドベ)による局所免疫治療と帯状疱疹ワクチン(水痘ワクチンとシングリックス)を行っています。局所免疫治療は難治性の円形脱毛症(慢性期)や尋常性疣贅に適応があります。感作と治療は1回1,000円(税抜)、円形脱毛症の評価時(月1回、ダーモスコピー等実施)は1回2,000円(税抜)としています(広範囲の場合は金額変更あり)。難治の患者さんがおられましたらぜひご紹介ください。

皮膚疾患全般を取り扱っています。水虫、イボ、ニキビをはじめ、重症の乾癬やアトピー性皮膚炎、蕁麻疹、化膿性汗腺炎に対する生物学的製剤治療、免疫抑制剤治療、皮膚腫瘍の診断・局所麻酔手術も行っています。

令和5年度 診療実績……

皮膚生検件数 153件/年 皮膚、皮下腫瘍摘出術件数 55件/年 皮膚悪性腫瘍切除術 13件/年 在宅自己注射新規導入症例数 59件/年 光線(紫外線)療法 423件/年

生物学的製剤治療症例数

アトピー性皮膚炎(デュピクセント・ミチーガ) 89人/年 蕁麻疹(ゾレア) 16人/年 乾癬(掌蹠膿疱症含む)(スキリージ・トレムフィア・トルツ他) 48人/年



皮膚科主任部長 鶴田 紀子



皮膚科副部長 古河 裕紀子



皮膚科 **村尾 玲**

眼科

5類になったとはいえ、コロナの感染はおさまりません。感染対策をやりながら、診療を続けています。眼科医一名、視能訓練士一名体制であり、患者さんにはご迷惑をおかけすることもありますが、一人ひとりの患者さんと大事に接することを心がけています。

患者さんのことをよく把握している三人の看護師が交替でまた、 医療クラークもついてくれるので、良い診療体制ができていると 思っています。

手術は入院にて原則、火曜日の終日と水曜日の午後おこなっています。

- ■白内障手術は1泊2日から3泊4日の入院
- ■硝子体手術は4泊5日から7泊8日の入院

スタッフは少人数ですが、丁寧な診療を心がけています。全身疾患を お持ちの方も内科や外科に相談しながら、安心して手術を施行して います。

認知症の方は全身麻酔での手術が可能です。

- ■白内障、緑内障、糖尿病網膜症、その他の眼底疾患
- ■他科との関連では、外傷なかでも眼窩底骨折による眼球運動障害や 眼底疾患
- ■ステロイド治療中のお子さんなど

白内障手術	97件	
硝子体手術	6件	
(増殖糖尿病網膜症、網膜前膜、眼内レンズ落下、前部硝子体切除など)		
その他	4件	



眼科主任部長 **板家 佳子**

精神科

精神科では広く精神科一般の病気を診ています。妄想や幻覚で苦しんでいる人や気持ちが落ち込んでつらい人、職場の悩みを抱えて体調不良に悩む人、夜眠れなくて困っている人等、症状やその程度は様々です。

病名としては統合失調症、うつ病、不安症、不眠症、適応障害、発達 障害、認知症などが主ですが、一口に精神科の病気といっても一人ひ とり症状も治療法も違ってきます。従ってその人に一番良い治療法 を目指しています。

また、外来患者さんだけでなく、当病院に入院中の他科患者さんの 心のケアにもあたっています。なお当院には精神科の病床はありま せんので、入院が必要な場合は他の精神科病院を紹介しています。

以上午前中の精神科外来、予約制の物忘れ外来、午後からの他科入院患者さんの精神面のケア(コンサルテーション・リエゾン精神医学)を主な業務としています。

外来では予約がなくても診ていますので受診者数は日によってばらつきがあります。そのため場合によっては思いがけずお待たせすることもあります。

統合失調症、うつ病、双極性障害、不安症、不眠症、発達障害、適応障 害、など

令和2年6月よりもの忘れ外来を始めました。当科での心理検査と放射線科の画像検査をもとに、早期に認知症の診断・治療ができるよう努めています。下記に認知症診断のため当院でできる画像検査を紹介しています。

■VSRAD検査

MRI検査です。早期アルツハイマー病では、脳萎縮が海馬で著明であるため、脳全体と海馬の萎縮の程度を一定値(ボクセル値)へ変換した後、健常人のデータベースを対照として解析することで、海馬領域が特に障害されていないかを判定します。身体的侵襲なしに比較的手軽にできるようになりました。早期アルツハイマー型認知症の診断に役立ちます。

■脳血流シンチ検査

半減期の短い放射線同位元素で標識した薬剤を静脈注射して行う 検査です。脳の血流分布の異常を調べることでMRIだけでは判断で きない認知症の鑑別に役立ちます。

■ダットスキャン検査

検査薬を静脈注射後撮像し脳内のドパミン神経の異常を評価します。レビー小体型認知症やパーキンソン病の診断に威力を発揮します。

外来患者数

初診	167人
再診	3,307人
紹介患者	114人
逆紹介患者	37人

入院患者のコンサルテーション

初診	177人
再診	408人
もの忘れ外来	34人



精神科主任部長 白石 康子 LGINL やすこ



精神科部長 石井 浩喜

婦人科

婦人科は医師1名で診療にあたっています。外来での待ち時間短縮のため、完全予約制で行っています。

女性は思春期から性成熟期、妊娠・出産、そして更年期・老年期と ライフステージを通してホルモン分泌がダイナミックに変化し、それはしばしば体調や生活に影響を与えています。女性特有の症状で お悩みになっている方が、身体的にも精神的にも少しでも楽になれるよう、専門性を生かした診療を心がけております。

初診の際は、かかりつけのクリニックや病院・医院(産婦人科の必要はありません。)で相談され、担当医の先生に紹介状の作成と受診予約(当院地域医療連携室経由)を取って来院されてください。特にかかりつけがない場合でも受診可能ですが、初診時選定療養費の7,700円(税込)が別途かかりますので、ご了承ください。また初診の方は、予約優先のため診察が遅い時間帯になる可能性がありますのでご理解ください。

■婦人科内分泌および女性のヘルスケア

初経を認めない原発性無月経や、月経がまれにしか起こらない稀発 月経、月経が止まってしまう続発性無月経、若い年代からの月経痛など の疾患は、早期の対応が望まれており、適切な対処と治療を行うことに より将来の全身状態に影響を及ぼします。また、月経量が多いことによ る鉄欠乏を対処することにより日常生活のメンタルヘルスの維持に繋 がります。また、更年期のトラブルを適切に対処することにより、高齢 期に心身機能をより良い状態で迎えられることが期待できます。

以上のような個々の状態を理解し対処できるよう心がけています。

■子宮頸がん2次検診

人間ドックなどで行った子宮頸がん検診で精密検査が必要となった 症例に対して、精密検査を行っています。

子宮頸部異形成の精密検査方法はコルポスコピー(拡大鏡)検査によって、異常の有無や程度を調べ、異常な部位を狙って組織を採取し、 病理組織検査を行います。その結果により治療方針が決まります。

当院では中等度異形成でハイリスクのHPVに感染している場合は、CO2レーザー蒸散術(入院・2泊3日)を行っています。

■バルトリン腺嚢

基本的には外来でバルトリン腺嚢胞に対しては開窓術などを行なっています。

- ■子宮筋腫 ■子宮頸管ポリープ ■子宮内膜ポリープ
- ■卵巣嚢腫 ■子宮腺筋症 ■子宮内膜症
- ■多嚢胞性卵巣症候群
- ■無月経(原発性・続発性)
- ■生殖器の先天性異常

- ■更年期障害
- ■骨盤臓器脱(ペッサリーリングによる治療 手術は不可)
- ■不妊症(子宮卵管造影検査)
- ■子宮頸部異形成
- ■バルトリン腺嚢胞・膿瘍(造袋術)
- ■月経困難症(月経痛)の治療
- ■性感染症の診断と治療
- ■性虐待、性被害(モーニングピルの処方不可)

診療実績(手術・検査数等)・2023年度 ……………

■外来手徘

子宮頸管ポリープ摘出術(22件) 薬物放出子宮内システム(ミレーナ®)処置(5件) バルトリン腺嚢胞造袋術(5件)

■入院手術

子宮頸部レーザー蒸散術(3件) 尖圭コンジローム切除術(レーザー蒸散術も含む)(3件)

■外来検査

子宮卵管造影検査(6件)



婦人科主任部長 **今福 雅子** いまふく まさこ

耳鼻咽喉科

当科は外来診療と、手術及び急性疾患の治療を中心に入院加療を 行っています。外来診療は、中耳炎、慢性副鼻腔炎等の一般的耳鼻咽 喉科疾患の治療から、幼児難聴の診断、めまいの診断治療、頭頚部腫 瘍(疑い)の検査と診断など、幅広く対処しています。

午前中は常勤医師 1 名体制で一般外来診療を行っています。午後は手術及び予約診で前庭機能検査(めまい検査)ファイバー等の検査、外来手術(ポリポトミー、鼓膜チュービング、生検等)、入院患者さんの診察等を行っています。咽喉頭や頚部等の急性炎症やめまい、突発性難聴、顔面神経麻痺等を入院の上、精査治療しています。また、声帯ポリープ、副鼻腔炎、扁桃炎等幅広く手術を行っています。

診療科の特徴

小児科領域に強い当院の特性を生かし、耳鼻科症状を有する小児については、小児科に加え耳鼻科でも診断、検査、治療、手術を行います。新生児スクリーニング検査で、聴力に問題があることが疑われる場合、ABR検査を含めた聴覚精密検査を行い、疑わしい場合は、早期に北九州市立総合療育センターなどの療育機関と連携し、早期の補聴器装用による聴覚の問題解決または軽減を図っています。

手術については、小児の反復性扁桃炎、睡眠時無呼吸症候群に対し、 積極的に手術を行っております。また、当院形成外科で口唇口蓋裂の手 術を行う際、合併する耳管機能不全、さらには慢性滲出性中耳炎に対 し、乳児期の鼓膜チューブ挿入手術を行っています。言語発達の遅れが 疑われる幼小児に対し、鼻咽腔ファイバーによる鼻咽腔閉鎖能の検査 を行い、当院形成外科および療育センターとの連携で、適切な治療方針 を決定しています。

外来では中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、扁桃炎、咽頭炎などの耳鼻咽喉科一般疾患を取り扱っています。また、急性扁桃炎、扁桃 周囲膿瘍、突発性難聴、内耳性めまい、顔面神経麻痺、声帯ポリープな どの入院管理が必要な耳鼻科疾患や耳鼻科手術に付随するものに対 応しています。



耳鼻咽喉科主任部長 麻生 裕明

放射線科

当科は現在放射線診断専門医2名で画像診断とIVR(インターベンショナルラジオロジー)を中心に診療を行っています。

画像診断は、CT 検査、MRI 検査、RI 検査、マンモグラフィなどを行っています。CT 検査では、高速ヘリカルスキャンにより鮮明で詳細な画像が得られます。またワークステーションにより冠動脈や腎動脈の狭窄、脳動脈瘤や大動脈瘤、骨折等の 3D 画像を容易に得ることができます。RI 検査では、SPECT 画像を、MRI 検査では、MR angio 画像を得ることができます。CT,MRI,RI に関しては予約制で、他院からの依頼も受けています。

IVR は血管系では一般的な TAE や PTA から比較的稀な B-RTO、リザーバー留置術まで、非血管系では、PTGBD、PTCD や膿瘍ドレナージ、生検、胆道ステント挿入等を施行しています。

- ■画像診断の対象となる疾患一般・・・腫瘍性疾患、炎症性疾患、 先天性疾患、外傷など
- ■肝細胞癌を始めとした悪性腫瘍に対する化学動注塞栓療法
- ■乳癌など悪性腫瘍に対する画像ガイド下針生検

診療実績

令和5年度実績

CT読影件数	10,161件
MRI読影件数	2,859件
RI読影件数	236件
IVR(当科単独施行件数)	21件



放射線科主任部長 今福 義博 いまふく よしひろ



放射線科部長神崎修一

麻酔科

麻酔科は、日本麻酔科学会認定麻酔指導医/日本専門医機構麻酔科専門医の資格を持つ2名を含む4名の常勤医と非常勤の先生方、それに産業医科大学麻酔学教室の先生方にも協力をいただきながら、手術麻酔(周術期管理)と外来診療を行っています。

外来は、週2日(月·木午前)に主にペインクリニック(痛みの外来) として診療しています。

当院は、小児(乳幼児)から高齢者まで、積極的に救急医療に取り組んでいます。そのため私たち麻酔科も、24時間365日、緊急手術も含めたあらゆる症例に対して『より安全に。より快適に。』をモットーとし、手術に関わる様々なスタッフと協力して周術期管理に取り組んでいます。

すべての患者の皆さまに安心して手術をお受けいただくことが私たちの目標です。新病院移転とともに整備された先進の各種医療機器やモニタリングシステムを駆使して安全な麻酔を担保するとともに、手術を受けられる方の快適性をも追求し、日々研鑽努力しています。多職種による術後疼痛管理チームも活動をはじめました。

麻酔業務以外にも各科と協力して疼痛管理や疾患治療、救急対応 に関わっています。

取り扱う主な疾患 ……………

手術麻酔: 狭義の局所麻酔症例を除く、全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、 硬膜外麻酔などによる手術の全例を麻酔科で担当させていだだいて います。

外来診療:帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、頚肩腕痛、腰下肢痛、頭痛、 遷延した術後痛、癌性疼痛、複合性局所疼痛症候群などの様々な痛み の治療に加え、痛みを伴わない末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴、四 肢の血行障害なども関係各科と協力して治療にあたっています。

診療実績

令和5年度の手術室における全手術件数 2,145 そのうち

麻酔科管理手術件数 1,399

麻酔科管理麻酔件数 1,377 (*複数科による同時手術があるため)

(全身麻酔件数 1,352)

手術室においては麻酔以外にも、重症患者に対するMAC (Monitored Anesthesia Care) や小児穿刺困難症例への薬剤髄腔内投与なども行っています。

麻酔科管理各科手術件数

診療科	件 数
整形外科	501
外科	375
形成外科	269
泌尿器科	143
耳鼻科	42
脳外科	48
婦人科	9
眼科	8
皮膚科	2
その他	2
計	1,399

外来受診患者内訳

疾患名	延べ人数
変形性脊椎症	121
帯状疱疹関連痛	86
顔面神経麻痺	17
前皮神経絞扼症候群	17
外傷後神経障害	13
癌性疼痛	12
三叉神経痛	11
突発性難聴	7
複合性局所疼痛症候群	7
慢性動脈閉塞症	3
その他	92
術前紹介	10
計	396



麻酔科主任部長 集中治療室長 金色 正広



麻酔科主任部長 手術室長 **齋藤 将隆**



麻酔科部長 禁保



麻酔科副部長 松原 光希 まつばら こうき

救急科

救急科医師を中心に外科系、内科系の救命救急センター当番医師の協力を仰ぎながら、救急診療にあたっています。日中の救急診療は、救急科専門医2名、後期専攻医3名、救急科研修医1名の6名で行っています。普段の救急診療のみならず、救急救命士の指導、地域メディカルコントロール体制への関与に従事しています。

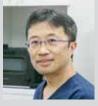
外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科とも連携しながら、 北九州市西部地域のさまざまな外傷疾患に対応しています。

免震構造の屋上へリポートを有し、北九州地域で出発生した広域 搬送事案において、消防防災へリやドクターへリの受入を積極的に 行っています。

北九州地域の災害基幹病院として、DMAT (災害医療派遣チーム)を有して、日頃から活動しています。

- ■重症外傷、多発外傷
- ■院外心肺停止
- ■消化管出血
- ■脳血管障害
- ■急性冠症候群

スタッフ紹介



救急科主任部長 呼吸器外科主任部長 救命救急センター長

井上 征雄



救急科部長 救命救急副センター長 平松 俊紀



救急科部長 室屋 大輔



救急科副部長 岡本 健司



救急科副部長 外科副部長 金野 剛

歯科

歯科は、歯科医師1名、歯科衛生士1名で診療を行っています。少人数で診療を行っておりますので、受診の際には予めご予約をお願い致します。また、円滑に診療をすすめるため、患者様には無断キャンセルをしないこと、予約時間に遅れるときは電話をいただくことをお願いしています。歯科の担当医は公益社団法人日本小児歯科学会認定の小児歯科専門医ですので、お子様のお口のお悩みにつきましてはお気軽にご相談ください。成人の患者様につきましても従来通り診療を行います。

小児歯科診療を積極的に行います。定期検診をはじめ、虫歯の治療、歯の外傷(顔面を強く打って歯がグラグラする、歯が折れた、など)に対する処置などを行います。また、安定期の妊婦さんを対象に出産に向けた口腔ケアを行ったり、生まれてくるお子さんが虫歯にならないために気をつけるべき事柄などをお伝えしたりします。乳幼児期は摂食機能や構音機能を獲得する大事な時期ですので、歯科の立場からこれら口腔機能獲得のための支援を行います。発達障害や有病のお子さんに対しましては、個々のお子さんの状況に応じて最適な治療方針をご相談させていただきます。

また、小児、成人を問わず、周術期の口腔管理を行います。

- ・小児の口腔領域の発育をサポートするための健診
- ・歯科検診
- ・虫歯の治療
- ・歯周病の治療
- ・外傷(けが):歯がグラグラする、歯が折れた、等に対する治療
- ・周術期口腔管理
- ・安定期の妊婦歯科検診
- ・口腔機能発達不全症に対する口腔筋機能療法(Oral Myofunctional Therapy; MFT)

など。



歯科主任部長 渡辺 幸嗣 ゎたなべ こうじ

臨床検査科

臨床検査科は2019年より正式な標榜科としてスタートいたしました。現在常勤医師1名、非常勤病理医師5名で運営し、診療内容は臨床検査に関わる各種診断、検査、管理、コンサルテーション業務を主体に活動を行っています。病理診断に関する業務は産業医科大学第2病理学講座の協力、生理機能検査は関連各診療科医師に協力いただいています。

また各種の検査結果に基づき院内の感染制御、医療安全業務、労働安全衛生業務に協力しています。

2018年の臨床検査に関わる医療法等の改正により、各種検査に精度管理者を配置し、正確な検査結果を保証するとともに検査機器の日々の的確な管理が求められるようになりました。現在の医療では、数年前と比べても疾患の細分化は進んでおり、治療はその細分化された診断に基づき行われます。検査機器もそれに併せて日々進歩し、正しい検査結果無くして正確な診断や治療は困難な時代を迎えつつあります。

救急医療の現場では迅速で正確な検査結果が必要とされる一方で、小児疾患、がん診療等においては慎重な取り扱いを必要とする遺伝子検査が必要となることがございます。常に病状や状況に合わせて、最適な医療を提供できるように各診療科と連携し、積極的に診療をサポートしています。

- <令和5年度の新たな取り組み>
- ■感染症検査体制の強化
- ■病院機能評価への準備、協力
- ■廃血率低減への取り組み

令和5年度も引き続き感染症検査体制の強化を行い、多項目遺伝子 検査の本格運用を開始しました。

また院内業務として令和5年度は病院機能評価受審があり、検査や 輸血体制の再確認を行うとともに、感染制御部門や医療安全部門と も連携協力を強化しました。病院機能評価においても輸血製剤の廃 血率は重要な項目ですが、日頃の廃血低減に向けた取り組みが高く 評価されました。

当科には日本臨床検査医学会及び日本病理学会専門医資格を有する常勤、非常勤医師が所属し、最新の知見を取り入れながら協力して 診断検査業務に当たっています。

- ■一般、生化学、免疫・輸血、血液に関わる各種検体の検査、診断及び 管理等
- ■細菌、真菌及びウィルスに関わる同定、遺伝子解析検査等
- ■病理診断及び検査(生検、手術材料に関する病理診断及び病理解剖等)
- ■生理機能検査(心電図、超音波検査、肺機能検査、脳波検査等)
- ■上記検査に関する診断、コンサルテーション
- ■輸血関連製剤の適正使用に関するアドバイス

	検査実績(検査項目数)
	快且大順(快且块口奴/
一般検査	173,338
生化学検査(含、免疫・輸血)	581,643
血液検査	226,300
生理検査	17,166
細菌検査	29,095
時間外緊急検査	284,152
病理検査(生検・術材)	1,530(件数)
病理検査(術中迅速組織検査)	8(件数)
病理検査(細胞診)	1,301(件数)
病理解剖	2

スタッフ紹介



臨床検査科主任部長 木村 聡

専門医・資格認定等一覧

専門医・資格認定等一覧



消化器・肝臓病名誉センター長 岡本 好司

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ·日本消化器外科学会専門医·指導医· 消化器がん外科治療認定医
- ·日本肝胆膵外科学会高度技能名誉指導医
- ・日本肝臓学会専門医・指導医
- · 日本消化器内視鏡学会専門医 · 指導医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ·日本乳癌学会認定医
- ·日本腹部救急医学会 腹部救急認定医·腹部救急暫定教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医
- ·日本Acute Care Surgery学会認定外科医
- · 日本血栓止血学会血栓止血認定医
- 日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医

外科周術期感染管理教育医



木戸川 秀生

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・
- 消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ·日本救急医学会専門医
- · 日本消化器病学会専門医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医
- ・日本腹部救急医学会 腹部救急認定医・腹部救急暫定教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



小児外科主任部長 新山 新

- ·日本小児外科学会専門医
- ·日本外科学会専門医



外科主任部長 山吉 隆友

- ·日本外科学会専門医·指導医
- ·日本消化器外科学会専門医·指導医· 消化器がん外科治療認定医
- ·日本消化器内視鏡学会専門医·指導医
- ·日本消化器病学会専門医
- · 日本外傷学会外傷専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ·日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- ·日本腹部救急医学会腹部救急認定医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



消化器外科主任部長 消化器・肝臓病センター長 野口 純也

のぐち じゅんや

- ・日本外科学会外科専門医・指導医
- ·日本消化器外科学会専門医·指導医·
- 消化器がん外科治療認定医 日本消化器内視鏡学会専門医
- ·日本消化器病学会専門医
- ·日本肝臓学会専門医
- · 日本腹部救急医学会腹部救急認定医



外科部長 上原 智仁

- ・日本外科学会外科専門医・指導医 ・日本消化器外科学会専門医・指導医・ 消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ·日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本腹部救急医学会腹部救急認定医



外科部長

又吉 信貴 またよし

·日本外科学会外科専門医

·日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医



外科部長

沖本 隆司 おきもと たかし

- · 日本外科学会専門医
- · 日本消化器病学会消化器病専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ·日本消化器外科学会専門医· 消化器がん外科治療認定医



参与

伊藤 重彦

- ·日本外科学会専門医·指導医
- ·日本呼吸器外科学会指導医
- ·日本胸部外科学会指導医 ・日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 日本救急医学会専門医
- · 日本腹部救急医学会腹部救急認定医 · 腹部救急暫定教育医
- ·日本消化器外科学会認定医
- ·日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医 · 外科周術期感染管理教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医

外科・救急科



呼吸器外科主任部長 救急科主任部長 救命救急センター長

井上 征雄

- ·日本外科学会専門医
- ·日本呼吸器外科学会認定登録医
- · 日本救急医学会専門医
- ·社会医学系専門医協会専門医·指導医
- 肺がんCT検診認定機構認定医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医



救急科副部長 外科副部長 金野

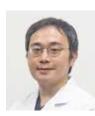
救急科



救急科部長 救命救急副センター長 平松 俊紀

としき ひらまつ

- ·日本救急医学会専門医
- ·日本化集中治療医学会専門医
- ·日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
- ・日本中毒学会認定クリニカル・トキシコロジスト
- ·日本外傷学会外傷専門医



救急科部長 室屋 大輔

- · 日本外科学会専門医 · 日本消化器外科学会専門医
- 消化器がん外科治療認定医 · 日本消化器病学会専門医
- ·日本肝臓学会肝臓専門医
- 日本旧道学会認定指導医 ·日本高気圧潜水医学会高気圧医学専門医

救急科



救急科副部長 岡本 健司

内科



統括部長 内科主任部長

末永 章人

- ·日本内科学会認定内科医·指導医·総合内科専門医
- ・日本神経学会専門医・指導医



内科

宮﨑 三枝子

みやざき

- ·日本内科学会認定内科医·指導医
- ·日本腎臓学会専門医
- ·日本透析医学会専門医



内科

平野 昭和 ひらの

- ·日本内科学会認定内科医
- ·日本消化管学会胃腸科専門医
- ·日本消化器病学会専門医
- ·日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本ヘリコバクター学会認定医

呼吸器内科



呼吸器内科主任部長

雄亮 森

ゆうすけ

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医 ·日本呼吸器内視鏡学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本結核・非結核性抗酸菌症学会専門医・指導医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



呼吸器内科副部長

久保 直登 なおと

呼吸器内科



呼吸器内科

遠藤 美有

循環器内科

循環器内科主任部長 津田 有輝

- ·日本内科学会認定内科医·総合内科専門医·指導医
- ·日本循環器学会専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定医

専門医・資格認定等一覧

循環器内科



循環器内科部長 岩垣 端礼

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ·日本循環器学会専門医
- ·日本不整脈心電学会心電図検定1級



循環器内科部長 中村 圭吾

- ·日本内科学会内科専門医
- ·日本循環器学会専門医

整形外科・リハビリテーション科



副院長 岡部 聡

さとし

- ・日本整形外科学会専門医・認定スポーツ医
- ・日本リウマチ学会専門医



整形外科主任部長 リハビリテーション科主任部長 目貫 邦隆

- ・日本整形外科学会専門医・認定リウマチ医・認定スポーツ医
- · 日本手外科学会専門医
- ·日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長 栗之丸 直朗 くりのまる なおあき

- ・日本整形外科学会専門医・認定スポーツ医・ 運動器リハビリテーション医・認定脊椎脊髄病医
- ·日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長 越智 宣彰 おち のぶあき

·日本整形外科学会専門医

整形外科・リハビリテーション科



整形外科副部長 大久保 友貴

·日本整形外科学会専門医

脳神経外科



脳神経外科主任部長 髙松 聖史郎

たかまつ

- ・日本脳神経外科学会専門医・指導医
- ·日本脳卒中学会専門医
- ·日本神経内視鏡学会技術認定医
- · 米国脳神経外科学会国際会員
- ・日本脳卒中の外科学会 ·日本脳神経血管内治療学会
- ·日本頭蓋底外科学会
- ·日本神経減圧術学会

脳神経外科



脳神経外科 浦勇 春佳

- · 日本脳神経外科学会
- · 日本脳神経血管内治療学会

形成外科



形成外科主任部長

田崎 幸博 たさき ゆきひろ

- ·日本形成外科学会形成外科専門医· 皮膚腫瘍外科分野指導医·小児形成外科分野指導医
- 日本執傷学会専門医
- ·日本創傷外科学会専門医
- ·日本口蓋裂学会認定師 (形成外科分野)

形成外科



形成外科部長 雅

·日本形成外科学会専門医



形成外科副部長 西野 優実

形成外科



形成外科副部長 浅部 浩明



麻酔科主任部長 金色 正広 まさひろ

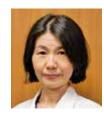
- ・日本麻酔科学会専門医・指導医 ·日本医療機器学会認定MEDIC
- ·厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本専門医機構麻酔専門医

麻酔科



麻酔科主任部長 齋藤 将隆 さいとう まさたか

- ・日本麻酔科学会専門医・指導医・日本集中治療医学会認定集中治療専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医



麻酔科部長 齋藤 美保 みほ さいとう

- ·日本麻酔科学会認定医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医

麻酔科



麻酔科副部長 松原 光希 まつばら

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科主任部長 麻生 裕明 あそう ひろあき

·日本耳鼻咽喉科学会専門医



眼科主任部長 板家 佳子 いたや よしこ

·日本眼科学会専門医



精神科主任部長 白石 康子 しらいし

・日本精神神経学会専門医・指導医

精神科



精神科部長 石井 浩喜

·日本精神神経学会専門医

放射線科



放射線科主任部長 今福 義博

- ·日本医学放射線学会放射線診断専門医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医

専門医・資格認定等一覧

放射線科



放射線科 神崎 修一 しゅういち

·日本医学放射線学会放射線診断専門医



泌尿器科主任部長 松本 博臣

・日本泌尿器科学会専門医・指導医

泌尿器科



泌尿器科部長 渡辺 舟貴 ·日本泌尿器科学会専門医

皮膚科



皮膚科主任部長 鶴田 紀子

·日本皮膚科学会認定皮膚科専門医



皮膚科副部長 古河 裕紀子 ふるかわ



皮膚科 村尾 玲 むらお



婦人科主任部長 今福 雅子 いまふく まさこ

·日本産科婦人科学会専門医

・日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医

・日本がん治療認定医機構認定医

· 母体保護法指定医師



歯科主任部長 幸嗣 渡辺 わたなべ こうじ

・日本小児歯科学会小児歯科専門医・指導医

·日本障害者歯科学会認定医

臨床検査科



臨床検査科主任部長 木村 聡

·日本内科学会総合内科専門医

·日本循環器学会専門医

・日本臨床検査医学会臨床検査専門医・臨床検査管理医

小児科



小児総合医療センター長 小児神経内科主任部長 天本 正乃

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医



統括部長 髙野 健-

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科主任部長 今村 徳夫

·日本小児科学会小児科専門医 · 認定小児科指導医



小児科主任部長 石橋 紳作

·日本小児科学会小児科専門医



小児科主任部長 小林 匡 こばやし まさし

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医

· 日本救急医学会専門医



小児科主任部長 佐藤 哲司

さとう

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医

· 日本血栓止血学会認定医



小児血液・腫瘍内科主任部長 安井 昌博

やすい まさひろ

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医

· 日本血液学会専門医 · 指導医

・日本小児血液・がん学会専門医・指導医

·日本造血·免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医 ·日本輸血·細胞治療学会認定医·細胞治療認定管理師



小児血液・腫瘍内科部長

二郎 稲垣 いながき じろう

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医

·日本血液学会専門医·指導医

・日本小児血液・がん学会専門医・指導医

·日本造血·免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医



小児科部長

富田 一郎

いちろう

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医



小児神経内科部長

池田 妙

いけだ たえ

·日本小児科学会小児科専門医 · 日本小児神経学会小児神経専門医



小児科部長

八坂 龍広

やさか たつひろ

·日本小児科学会小児科専門医



小児科部長 小児臨床超音波センター長

小野 友輔

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医

·日本超音波医学会超音波専門医(総合領域)



小児科部長

小野 佳代

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医

・日本アレルギー学会専門医



小児科部長 小児救急センター長

福政 宏司 ふくまさ ひろし

·日本小児科学会小児科専門医·認定小児科指導医

·日本集中治療医学会認定集中治療専門医

専門医・資格認定等一覧

小児科



小児科部長 長嶺 伸治



小児神経内科部長 福井 香織 ふくい かおり ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医

·日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医



小児科部長 沖 剛 あき たけし ・日本小児科学会小児科専門医 ・日本アレルギー学会専門医



小児血液・腫瘍内科部長 松石 登志哉 まついし としゃ ・日本小児科学会小児科専門医



中野 慎也 なかの しんや ・日本小児科学会小児科専門医 ・日本腎臓学会腎臓専門医

小児科部長



小児科部長 中野 珠菜 なかの たまな ・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長 **藤崎 徹** ふじさき とおる



小児科部長 **森吉 研輔** もりよし けんすけ



小児神経内科 村上 知恵 むらかみ ちぇ ・日本小児科学会小児科専門医 ・日本小児神経学会専門医



小児科 富田 芳江 とみた よしえ ・日本小児科学会小児科専門医



小児科専攻医 **竹井 文哉** たけい ふみや



小児科専攻医 **梶原 悠** ゕじわら ゆたか



小児科専攻医 **莫根 良太** ぁぐね りょうた



小児科専攻医 **矢崎 陽** ゃざき あかり

初期臨床研修医



初期臨床研修医 **小野 周平** ぉの しゅうへい



初期臨床研修医 **天野 翔健**



初期臨床研修医 岩**崎 可歩** いわさき かほ



初期臨床研修医 前田 優華



初期臨床研修医 **江﨑 光世**



初期臨床研修医 **木村 愛美**



院内センター

救命救急センター

当院の救命救急センターは1978年10月に九州で2番目の救命 救急センターとして開設されて以来、北九州地域の三次救急医療体 制の中核施設としての役割を果たしてきました。

当センターは北九州市西部地域の2次、3次救急を担う救命救急センターであり1. 救命救急医療、2. 小児救急医療、3. 災害支援医療を政策医療に掲げています。免震の大型屋上へリポートはヘリ搬送患者の受け入れ拠点として運用されています。また、病院敷地内には常設型救急ワークステーションができ、北九州地域の救急業務メディカルコントロール体制における中核施設として活動を行っています。

■若手医師の研修体制

初期研修医は、救急科研修を通じて、平日時間帯は救命救急センター担当医の指導助言のもと、センターに救急搬送された内科、外科系患者の診療に携わっています。救急科領域専門研修プログラム (八幡病院エキスパート研修プログラム)に基づき、現在3名の専攻医が救急領域研修を行っています。研修医、専攻医においては、初期対応患者が緊急手術となるような場合は、手術にも参加出来ます。また、専攻医は、病院前救護とメディカルコントロール体制を学ぶため、当院敷地内に設置されている救急ワークステーションにおいて消防救急車の医師同乗指導に参加します。

■救急救命士の実習体制

当救命救急センターは、北九州地域の救急救命士に対する再研修、 就業前実習、薬剤認定救命士実習、救命救急九州研修所の病院実習な ど、年間50名以上の実習生を常時受け入れています。また、医師に よる診断内容の解説、救急外来・一般病棟業務、手術室業務の見学実 習、臨床検査技師課、放射線技師課での研修など、搬送傷病者の病院 収容後の診療経過が広く学べる体制となっています。

・常設型救急ワークステーション活動

救急ワークステーション(WS)は、2008年6月に当院敷地内に開設されました。平日日勤帯は病院前医療、メディカルコントロール体制を熟知した当院のMC医師が常駐し、救急隊への同乗指導を行っています。

| スタッフ紹介 |



救急科主任部長 呼吸器外科主任部長 救命救急センター長 ++ ト なてお生

井上 征雄



教急科部長 救命救急副センター長 平松 俊紀



救急科部長 室屋 大輔



救急科副部長 岡本健司 abyte けんじ



救急科副部長 外科副部長 金野 剛

救命救急センター

令和5年度 診療実績 ……………





小児救急センター

センターの紹介

当センターは、24時間365日、病気や怪我を問わず、子どもたちの急な不良・不調の診療を行っております。最初の診療・対応を当センターが行い、必要に応じて専門の診療科への診療の引き継ぎを行います。また、集中治療室で重篤な子どもの病状管理や、他院で治療が必要な場合の救急車やヘリでの施設間搬送のほか、院外での教育活動や災害医療にも携わるなど、幅広い活動を行っています。

センターの特徴・取組み等

1)24時間365日体制

24時間365日、内因性(病気)、外因性(けが、中毒など)を問わず、また軽症から重症に関わらず、すべてのお子さまへの対応を行っております。

2)トリアージシステム導入

当センターでの診療は、受付順ではなく、看護師により緊急度・ 重症度を判断(トリアージ)し、その緊急度に応じて診療を行ってお ります。そのため、より緊急度が高いお子さまの診察を優先します ので、お子さまの病状によって診療の順番が前後する場合がござい ます。

3)夜間・休日診療

夜間・休日診療では緊急処置を実施することを目的とし、詳しい特殊な検査などが必要な場合には、通常診療時間帯の専門診療科に紹介し、実施させて頂いております。当然のことながら、緊急入院治療が必要であれば入院の上、適切な検査・処置を実施致します。また原則1日分(あるいは休日明け分まで)の処方とさせて頂いています。継続処方が必要であれば、翌日または休日明けに、かかりつけ医療機関を受診して頂くようにお願いさせていただいています。

当センターは急性期のどんなニーズにも対応し、お子さまとその 保護者の方々が安心できる医療の提供を心がけております。緊急の 対応が必要と判断された際には直接ご紹介いただくか、お電話でご 相談ください。

夜間・休日受診者数	29,182人
夜間・休日入院患者数	1,268人
救急車受け入れ台数	1,368台
救急車入院患者数	311人

| スタッフ紹介 |



小児救急センター長 小児科部長 福政 宏司 ふくまさ ひろし

小児臨床超音波センター

2023年4月1日に日本初の小児臨床超音波センターが開設されま した。『小児科医』が『実臨床』の中で自ら『超音波検査』を行うセン ターです。今後の小児救急医療にはこのスタイルが必要と考え2011 年から計画を進めてきたプロジェクトが形になりました。その火付 け人である故 市川光太郎名誉院長は『常に謙虚に』。という言葉を モットーにしておりました。当センターはその言葉を胸に、こどもた ちの声なき声を超音波検査で聞く代弁者でありたいと思います。

自ら外来で、また当院外来担当医や近隣の先生方からご紹介いた だいた患者さんに対して積極的に超音波検査を施行します。腹痛や 嘔吐の原因、熱の原因はもとより、原因不明のしこり(腫瘤)や不機 嫌、あるけない、など多くのご依頼をいただいています。原因が不明 な場合でも、緊急性があるのかどうか、などを見分けていきます。ま た超音波検査も臨床医が行いますので、その場で臨床的な追加治療 や追加検査の説明や方針検討も行います(ダブルアイシステム)。そ して、入院や外来などすべての患者さまに超音波検査を用いてプラ ス1の医療を提供できないかということを日々模索しております。

また、当院には小児超音波の研鑽を希望し全国から多くの医師が 研修にきてくれます。"開業をするので1か月集中特訓を希望! "と いう熱い先生もおられました。週に一回、半年、一年、また後期研修医 として3年間などいろいろなニーズに合わせて、"一発診断をつける 武器、そして診断エラーから防ぐ防具"を得てもらうことを目標にし ています。また当センターの卒業生が全国で超音波検査を駆使し活 躍しています。『どこの放射線科で超音波を学んだの?』『小児科でし か研修をしていません!』といううれしいやりとりもあるようです。

小児臨床超音波センター理念

- ー 小児臨床超音波センターは常に謙虚な心を持ちチーム医療を徹
- 二 小児臨床超音波センターは no blame & respect の精神を持 ち、どんな依頼でも thanks for calling の気持ちを持つ
- 三 小児臨床超音波センターは内因、外因関係なくこども達はすべ て診させていただく思いを持つ
- 四 小児臨床超音波センターはこども達だけではなく、保護者とも がっぷり四つである
- 五 小児臨床超音波センターはこども達の代弁者という思いを持 ち、プローブを通して、その声なき声を聞く

令和 5 年度 診療実績······



スタッフ紹介



小児臨床超音波センター長 小児科部長

小野 友輔 小児科専門医・指導医で日本超音波医学会(総合領域)専門医・指導医を保持している医師は全国でも数名です。 学会での講演、シンポジウムをはじめ全国から講演やハンズオンセミナーの依頼が殺到しています。

日本小児科学会専門医·指導医、日本超音波医学会(総合領域)専門医·指導医 日本超音波医学会教育委員会、専門医制度委員会 小児超音波研究会理事 茨城こどもECHOゼミナール理事 スクリーニングネットワーク理事

■受賞歴

2015、2016年 超音波医学会(九州ブロック) YIA (young investigators award) 最優秀賞(二年連続) 2017年 第26回 canonメディカルシステムズ 画論 優秀賞 2018年 小児超音波研究会 best image 最優秀賞 2019年 第27回キヤノンメディカルシステムズ 画論 最優秀賞

最優秀賞受賞 第29回キヤノンメディカルシステムズ 画論 優秀賞 2021年

他、エコー研修生達の超音波関連発表、受賞多数

■執筆

浅井塾直伝!できる小児腹部エコー 小児超音波診断のすべて 腸重積ガイドライン(第二版) 他多数

消化器・肝臓病センター

~消化器疾患・肝臓疾患の専門医・薬剤師・看護師が連携して診 療します~

消化器・肝臓病センターは2011年11月に各種消化器疾患・肝臓 病を総合的に、専門的に、かつ先進的に医療を行うため開設されまし た。胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆嚢癌、膵臓癌、胆管癌等の悪性腫瘍に加え て、胃・十二指腸潰瘍、胆石症、ウイルス肝炎、肝硬変、脾腫、食道静脈 瘤、膵炎、胃・十二指腸逆流症、大腸ポリープ、大腸憩室症等の良性疾 患に対して消化器内科、消化器外科、肝臓外科、胆道外科、膵臓外科、 内視鏡外科、放射線科の各診療科の密で機動的、横断的な連携によ り、高度な診療体制を構築するとともに、がん薬物療法認定薬剤師や 看護師等とともにチームワーク良く診療を行っています。

また、救命救急センターと密な連絡をとり、腹膜炎、急性胆管炎、急 性胆嚢炎、急性膵炎、急性腸炎等の急性腹症、吐血、下血、腹部外傷な ども消化器の専門性を活かしながら、診療を行っております。

開設後すでに12年経過しましたが、手術件数、内視鏡件数、癌化学 療法件数、緊急入院件数等は順調に増加しており、地域の皆様に役に 立つ消化器疾患、肝臓疾患の専門センターとして今後とも機能して いく予定です。

さらに、新病院移転後の2018年12月からは、西日本最大の広さと 機能を持つ血管造影とCT撮影を備えた手術室(ハイブリッドオペ レーションルーム)を新設し、出血疾患や外傷に対応するとともに、 塞栓手術やCT併用の腫瘍焼灼術なども症例を伸ばしています。

(1)放射線専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門 医、消化器外科専門医による検査・診断

(2)消化器内視鏡専門医、消化器がん外科治療認定医、消化器外科専 門医、肝胆膵外科高度技能指導医、内視鏡外科学会技術認定医等によ る内視鏡治療、腹部各領域のがん手術、腹腔鏡手術、放射線専門医が 行うカテーテル治療

(3)がん化学療法認定医、がん治療認定医(教育医)、消化器病専門医、 肝臓病専門医、がん薬物療法認定薬剤師や看護師が共同で行う、がん 化学療法、分子標的治療、肝炎インターフェロン治療、肝炎抗ウイル ス療法(インターフェロンフリー療法)等の薬物治療

| スタッフ紹介 |



院長 消化器・肝臓病名誉センター長 岡本 好司



放射線科主任部長 今福 義博



統括部長 木戸川 秀生



放射線科 神崎 修一 しゅういち



消化器外科主任部長 野口 純也



外科主任部長 山吉 隆友



小児外科主任部長 新 新山



外科部長 上原 智仁

内科 三男 馬場 ばば

感染管理担当係長 (感染感染感知認定看護師) 中川

祐子

薬剤課課長 (がん薬物療法認定薬剤師) 原田 桂作 けいさく

副看護師長 (肝炎医療コーディネーター) 小椋 裕美

薬剤課師長 (がん薬物療法認定薬剤師) 末吉 宏成 すえよし ひろあき

副看護師長 (がん薬物療法看護認定看護師) 福永

災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター

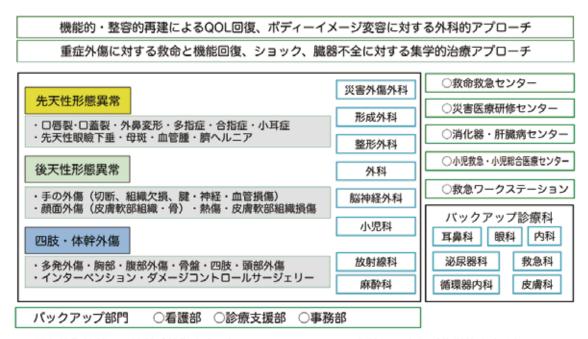
外傷やその他の形態異常によって、患者さんはQOL(クオリティオブライフ、生活の質)を損なわれることがあり、身体の形態におよんだ変化によって患者さん自身には様々なストレスを生じることになります。

「外傷・形態修復・治療センター」では、先天的な形態異常や後天的な外傷・手術後の変形などに対し、チームとして機能的・整容的な再建を行うことで患者さんのQOL回復を目指します。

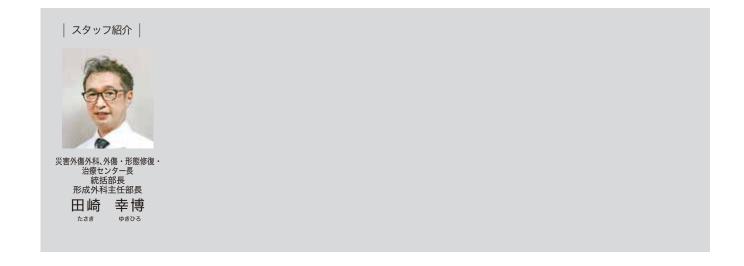
事故災害等で発生する外傷に対して、主に救命救急センター、小児 救急・小児総合医療センターが 24 時間体制で窓口となり、当センター の関連各科が滞ることなく連携し、初期から回復期まで専門的な治療 を繋げて行くことができます。

災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVR やショック、急性腎不全などの集学的治療も担っています。

組織様式と主な対象疾患 …………



※災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全など集学的治療を担う





薬剤課

部門の紹介

病める患者さんのために薬学的視点から医薬品の有効性・安全性を確保することを基本姿勢とし、救急医療に対応するため24時間の勤務体制でチーム医療に貢献しています。がん化学療法では、がん薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師が協働し抗がん剤の無菌調製やレジメン管理・有害事象防止の提案を行い安心・安全な化学療法を提供しています。抗菌化学療法認定薬剤師を含む課内感染対策チームが感染制御に携わり、高度医療(医薬品)安全推進者の認定を受けたスタッフが医療安全・医薬品安全を推進しています。DMAT(災害派遣医療チーム)の業務調整員も在籍し、災害発生時の対応も行っています。NST(栄養サポートチーム)専門療法士は薬学的見地より薬剤の処方内容を検討するとともに、輸液製剤、経腸栄養剤と変別との相互作用の検討を行い、患者の回復を栄養面から支援します。糖尿病、アレルギー疾患、心不全、腎臓病の各療養指導士もそれぞれの分野で活躍しています。このように当課では専門・認定薬剤師の取得を支援しています。地域の保険医療機関や保険薬局との連携を強化していきたいと考えております。

主な業務内容

■中央業務

処方監査を行い、薬剤の減量等が必要な場合は医師に疑義照会した上で調剤します。計数調剤管理システムや散薬監査システム、錠剤自動分包機、散薬自動分包機、散薬調剤ロボットも導入しています。注射薬は定期薬に対し 1 施用毎の払い出しを行っています。

■外来薬剤師業務

がん治療に係る説明や、吸入薬・インスリン・各種皮下注射等におけるデバイス 等の説明を行います。

■入院支援センター業務

予定入院患者さんの常用薬、副作用歴、休薬が必要な薬剤の確認などを行い、必要な説明や情報提供を行っています。

■制割業務

市販にない製剤を医療現場からの要望により、妥当性を評価し調製しています。また、小児入院患者さんに使用されるTPN(経静脈栄養法)の輸液調製を行っています。

■治験薬調製業務

薬剤課は、院内の治験薬(試験薬)を一括して管理しており、安全かつ迅速に患者さんに投与するために、注射剤であれば無菌調製等も行っています。治験(臨床試験)に関わる医師、看護師、臨床試験コーディネーターらと連携して、円滑に試験が実施できるようサポートしています。

■医薬品情報業務

最新の医薬品情報を整理し、必要な情報を迅速に提供します。また薬事委員会の事務局として医薬品の採用に係る審査を行います。電子カルテの医薬品に係るマスター管理を行っています。

■病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟の専任薬剤師が持参薬・薬物相互作用・副作用歴・アレルギー歴・喘息の既往、 検査値の確認を行い、退院するまで継続して検査値、薬物有害事象の確認を継続し、 処方提案を積極的に行います。医師・看護師などへの医薬品情報の提供、病棟におけ る医薬品管理などを行っています。カンファレンスや回診にも同行します。

■周術期管理業務

術後疼痛管理チームの一員として医師・看護師・臨床工学技士と協同し、術後患者の痛みや吐き気などの苦痛を緩和することを目的とし活動しています。

■抗がん剤等の無菌調製およびモニタリング

申請されたレジメンを審査し、登録を行い、その情報に基づき、各患者の状態に応じた抗がん剤の無菌調製を行います。リーフレットを用い投与スケジュールや予測される副作用について説明し、抗がん剤投与後も有害事象をモニターし支持療法を提案しています。

■治療薬物モニタリング

抗菌化学療法等、適正な薬物療法のため薬物の血中濃度から投与設計・モニタリングを行います。アミノグリコシド系薬剤等は腎臓の機能に合わせた投与量が必要とされ、MRSAに使用されるバンコマイシン等は抗菌力を発揮するためには十分な投与量が必要とされます。薬剤師は体重や腎機能に合わせた投与量の設計を実施し、医師に提案しています。

スタッフ紹介



薬剤課 課長 **原田 桂作** はらだ けいさく

薬剤課の特徴・強みとして、小児の薬物療法に注力していることです。小児薬物療法認定薬剤師も在籍し、患児および保護者に対しても医薬品に関する説明や助言・教育を行っています。小児領域の薬物療法は、長期にわたるがん化学療法の管理や成長ホルモンや吸入のデバイス説明、糖尿病療養指導、臨床試験への参加など多岐にわたり、成人とは異なる難しさがあります。なかでも小児のがん化学療法を専門的に行える施設は全国的にも少なく、当院の特徴の一つと言えます。薬剤師が、がん化学療法に密接に関わることで患児やで家族のQOLがあがり、レジメン遂行の達成率もあがると考えられます。

成人の患者さんにも同様な手厚い病棟薬剤師業務を実践しています。退院後の薬物療法が安全に行えるように八幡薬剤師会とも密接に連携をとっており、定期的に薬薬連携会を開催しています。

令和5年度 業務実績

業務内容	実績数
処方箋枚数(入院)	5,296.7枚/月
処方箋枚数(外来)	6,713.8枚/月(うち院外6,691.5枚/月)
注射処方箋件数(入院)	5,733.8枚/月
注射処方箋件数(外来)	1,171.3枚/月
抗がん剤調製件数	990件
がん患者管理指導料3算定件数	22件
連携充実加算算定件数(令和6年3月再開)	25件
病棟薬剤業務加算 1 算定件数	14,845件
薬剤管理指導算定件数	
薬剤管理指導料(325点)	6,267件
薬剤管理指導料(380点)	6,570件
退院時薬剤情報管理指導料	5,212件
麻薬管理指導加算	155件
TDM解析業務件数	107件
吸入指導件数	327件
インスリン・SMBG指導件数	68件
成長ホルモン・デバイス指導件数	9件
骨粗鬆症デバイス指導件数	6件
アトピー性皮膚炎・喘息デバイス指導件数	2件
入院支援センター面談件数	367件
薬学部実務実習生受け入れ	6名

2014101-100	
専門資格名	人数
認定実務実習指導薬剤師	4名
日本医療薬学会認定医療薬学専門薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会認定NST専門療法士	1名
日本医療安全学会高度医薬品安全推進者	1名
日本医療情報学会医療情報技師	1名
日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本臨床腫瘍薬学会認定外来がん治療認定薬剤師	2名
日本化学療法学会認定抗菌化学療法認定薬剤師	1名
小児薬物療法認定薬剤師	2名
日本救急医学会認定救急認定薬剤師	1名
日本災害医学会認定災害医療認定薬剤師	1名
日本災害医療薬剤師学会災害医療支援薬剤師	1名
日本救急医療医学会ICLS	2名
アレルギー疾患療養指導士	3名
日本循環器学会認定心不全療養指導士	1名
腎臓病療養指導士	1名
日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	2名
福岡県糖尿病療養指導士(LCDE)	2名
肝炎治療コーディネーター	4名
介護支援専門員	1名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	9名
日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師	2名

臨床検査技術課

部門の紹介

臨床検査技術課は男性7名、女性20名の臨床検査技師と、受付担当の女性3名で業務にあたっています。半数以上を20~30歳代の技師で構成しており、定年退職後再任用として頑張っている技師もいます。検査を通して病院機能に貢献できるよう、誠実に真心を込めて検査に取り組み、皆様に安心・信頼される臨床検査技術課を目指し、全スタッフで日々努力しています。また、臨床検査技師を目指す学生の臨地実習を受け入れ、臨床検査技師育成にも貢献しています。

主な業務内容

■一般検査

尿・便・髄液・体腔液等の一般スクリーニング・ウイルス抗原迅速 検査、遺伝子検査

■病理学的検査

組織検査・細胞検査・病理解剖

■血液学的検査

血球数算定・分類、凝固線溶系検査

■生化学的検査

血液化学検査・内分泌学的検査・腫瘍マーカー・感染症免疫学的検査

■生理機能検査

超音波検査・心電図検査・聴力検査・脳波検査・肺機能検査

■輸血検査

血液型・不規則性抗体スクリーニング検査・交差適合試験

■細菌学的検査

一般細菌培養・同定・感受性、抗酸菌培養・同定、遺伝子検査

検体検査では、患者さんから採取された様々な検体を対象として、 正確なデータを迅速に患者さんのもとにお届けできるよう検査に臨 み、質の高い検査を維持できるよう努力しています。また、生理機能 検査では、患者さんと直接接する検査なので、十分な説明のもと安心 して検査を受けていただけるよう心がけています。

当院は入院時の新型コロナウイルス遺伝子検査を継続して行っており、ルーチン帯は1日3回の定時検査として、TRC法を行い、ルーチン帯と時間外の迅速検査として、RT-PCR法を行い診療に貢献しています。

病院の掲げる政策医療である救命救急医療と小児救急医療にも対応すべく夜勤者を2名配置し、24時間365日検査ができる体制をとっています。また、災害支援医療に関しては、災害派遣医療チーム(DMAT)にも2名が参加しており、定期的な訓練等も行っています。

検査部門別件数

	一般検査	生化学検査	血液検査	生理検査	病理検査	細菌検査	時間外検査	総件数
4月	12,344	41,785	15,877	1,188	876	2,005	18,118	92,193
5月	14,439	47,315	18,355	1,393	832	2,466	27,401	112,201
6月	15,928	53,792	21,343	1,398	1,008	2,657	22,715	118,841
7月	14,731	48,145	18,891	1,441	1,166	2,658	27,327	114,359
8月	15,417	55,088	21,815	1,563	1,038	2,615	24,541	122,077
9月	14,506	50,261	19,423	1,433	969	2,607	23,022	112,221
10月	13,593	46,318	17,858	1,641	1,285	2,179	21,239	104,113
11月	13,742	45,180	17,718	1,380	1,040	2,394	24,852	106,306
12月	15,381	48,416	18,957	1,389	1,087	2,334	25,967	113,531
1月	14,056	48,523	18,922	1,423	884	2,712	22,819	109,339
2月	14,245	47,907	18,742	1,394	828	2,339	24,449	109,904
3月	14,956	48,977	18,399	1,523	881	2,129	21,702	108,567
合計	173,338	581,707	226,300	17,166	11,894	29,095	284,152	1,323,652
月平均	14,445	48,476	18,858	1,431	991	2,425	23,679	110,304

外来・入院別件数

	一般	一般検査		学検査	血液	血液検査		生理検査		検査	細菌	検査
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
4月	9,919	2,425	27,807	13,978	9,908	5,969	1,013	175	408	468	1,290	715
5月	11,029	3,410	29,968	17,347	10,771	7,584	1,100	293	438	394	1,722	744
6月	12,346	3,582	34,293	19,499	12,514	8,829	1,153	245	389	623	1,688	969
7月	11,687	3,044	30,679	17,466	11,096	7,795	1,160	281	334	832	1,782	876
8月	12,154	3,263	33,666	21,358	11,997	9,818	1,289	274	337	701	1,651	964
9月	11,172	3,334	31,412	18,849	11,298	8,125	1,145	288	381	588	1,589	1,018
10月	10,892	2,701	30,105	16,213	10,792	7,066	1,388	253	470	815	1,367	812
11月	10,579	3,163	27,129	18,051	9,929	7,789	1,104	276	375	665	1,481	913
12月	11,925	3,456	30,356	18,060	10,911	8,046	1,135	254	432	655	1,525	809
1月	11,239	2,817	29,170	19,353	10,561	8,361	1,143	280	361	523	1,579	1,133
2月	11,657	2,588	29,081	18,826	10,471	8,271	1,153	241	351	481	1,463	876
3月	11,998	2,958	31,051	17,926	11,045	7,354	1,292	231	359	522	1,412	717
合計	136,597	36,741	364,717	216,926	131,293	95,007	14,075	3,091	4,635	7,267	18,549	10,546
月平均	11,383	3,062	30,393	18,077	10,941	7,917	1,173	258	386	606	1,546	879

資格認定者数

VE 15 6	1. 1/4/
資格名	人数
細胞検査士	5名
認定超音波検査士	7名
認定輸血検査技師	1名
健康食品管理士	1名
食の安全管理士	1名
有機溶媒作業主任者	4名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3名
認定臨床微生物検査技師	1名
感染制御認定臨床微生物検査技師	1名
認定血液検査技師	1名
特定病原体等の運搬責任者	2名
福岡県糖尿病療養指導士	1名
二級臨床検査士(微生物学)	2名
福岡県DMAT	1名
緊急臨床検査士	1名
肝炎コーディネーター	1名
医療安全管理者	1名
臨地実習指導者	1名

| スタッフ紹介 |



臨床検査技術課 課長 荒木 猛 あらき たけし

放射線技術課

放射線技術課は診療放射線技師22名、24時間体制で放射線業務を行っています。主な検査内容はX線撮影、CT検査、MRI検査、RI検査、透視検査、血管造影検査、心血管造影検査です。患者の負担軽減を考慮しつつ質の高い検査を行い、診療の支援が出来るよう努めています。

機器および運用を整備し、高度医療機器の共同利用のお役に立てると考えております。地域医療機関からの検査依頼をお願いいたします。

新型コロナウイルスは今でも散見されるので、今後も感染対策には十分に注意してまいります。

① X 線撮影(4室):一般撮影、デンタル、マンモグラフィー

②骨密度測定(1台)

③CT検査(256列:1台、64列:1台)

④MR I 検査(1.5テスラ:1台)

⑤R I 検査(1台)

⑥透視検査(2台)

⑦血管造影検査 (バイプレーン血管造影装置と64列CT装置のハイブリッド手術室:1室)

⑧心血管造影検査(2 台)

放射線技術課では、各部門にチーフ担当者を配置し、特にCT検査、MRI検査部門には専従の技師を配置しており、質の高い検査を心掛けています。学会や研修に参加し、知識や技術の向上に励んでいます。

また、医療放射線被ばくの管理は大きな役割だと考えており、診療に適した検査を行いつつ、放射線被ばくを低減するよう取り組んでまいりました。その結果、日本診療放射線技師会により2019年に「医療被ばく低減施設」に認定されました。福岡県では7番目、北九州市では2番目の認定となり、北九州市立八幡病院の努力の成果だと自負しております。

地域医療、救急医療に貢献できるよう、すべての救急検査に対応できる診療放射線技師を育成し、24時間体制で対応しています。患者とスタッフの安全を第一に考え、感染対策を徹底し、診療の一助となるよう努めてまいります。

R 5 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般 撮影	2,522	3,145	3,131	3,106	3,125	2,739	2,680	2,605	2,745	2,724	2,781	2,738	34,041
透視	150	171	126	111	142	157	150	149	124	136	138	134	1,688
СТ	791	865	842	835	954	853	830	816	836	809	842	788	10,061
MRI	193	220	255	230	261	241	248	250	241	242	209	221	2,811
RI	14	22	22	14	18	18	29	22	20	16	23	17	235
血管造影	3	2	4	2	3	5	1	3	1	5	4	1	34
心カテ	15	26	17	15	31	22	22	22	17	21	23	15	246
MMG	12	3	11	5	7	11	7	14	3	5	5	13	96
骨塩	27	20	20	27	28	33	25	12	22	24	19	25	282

業務内容	実績数
第1種放射線取扱主任者	5名
検診マンモグラフィー撮影認定	1名
磁気共鳴専門技術者	2名
X線CT認定技師	7名
A i 認定	2名
画像等手術支援認定	4名
救急撮影認定技師	2名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	1名
医療情報技師	1名

| スタッフ紹介 |



放射線技術課 課長 博林 斉

リハビリテーション技術課

当院は(1)救命救急医療(救命救急センター)、(2)小児救急医療(小児救急・小児総合医療センター)、(3)災害支援医療(災害医療研修センター)を政策医療に揚げています。

リハビリテーション技術課では主治医の指示により、主に入院患者さんの発症直後からの急性期・早期リハビリテーションをリスク管理に注意しながら実施しております。また多職種で患者さんの機能回復・ADL向上に関わり、回復期病院転院や自宅退院などを目指しております。

スタッフ数:医師1名、理学療法士11名、 作業療法士6名、言語聴覚士3名

主な業務内容

- ■リハビリ診療:疾患別リハビリテーション(運動器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、廃用症候群)、がんのリハビリテーション、摂食・嚥下療法など。
- ■ICU、PICUなどへの早期離床・リハビリテーション介入。
- ■チーム医療への参加(病棟専従スタッフ配置、チームラウンド、カンファレンス、回診など)
- ■各種委員会への参加

当院は急性期の地域支援病院で一般診療、小児科など様々な疾患の患者さんを受け入れている特徴があります。

2018年12月の新病院移転より、整形外科疾患の人工関節手術や関節内の手術などが行われるようになりました。術前・術後のリハビリテーションを積極的に行い、患者さんのQOL向上につなげていけるよう頑張っております。

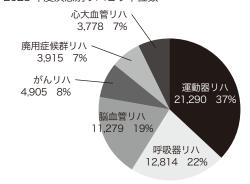
ここ数年は病棟専従スタッフ配置を少しずつ進め、病棟看護師や 他職種との連携を深め、入院患者様のADL向上に努めています。

今後は病棟専従スタッフを全病棟に配置していきたいと考えております。

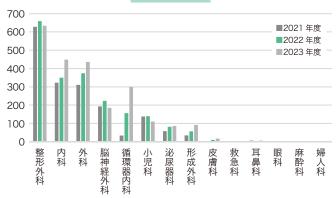
また、ICU、PICUにおける早期離床・リハビリテーションにも引き 続き取り組んでいきたいと考えております。

業務実績

2023 年度疾患別リハビリ単位数



診療科別新患数



資格認定者数 …………

専門資格名	人数
3学会合同呼吸療法認定士	PT5名、OT2名
心臓リハビリテーション指導士	PT2名
がんのリハビリテーション研修終了	PT10名、OT6名、ST2名
介護支援専門員(ケアマネージャー)	PT3名、OT1名
認定理学療法士(運動器)	PT 1 名
A-ONE認定評価者	OT 1 名
失語症者向け意思疎通支援者	ST1名
福祉住環境コーディネーター 2級	OT2名
骨粗しょう症リエゾンマネージャー	OT2名
精密知覚機能検査講習受講者	OT2名
医療安全管理者養成講座終了者	PT1名

スタッフ紹介



リハビリテーション技術課 理学療法士長 **須﨑 省二** すざき しょうじ

栄養管理課

安心安全でおいしい食事の提供を心がけています。患者さんの病態に応じて食事の内容は異なりますが、食事を楽しんでいただけるように、献立に季節感を盛り込み、行事食にはカード等を添えて提供しています。また、栄養管理計画に沿った栄養摂取、個々の治療の達成のためにも、しっかり喫食していただけるよう、患者さんの声も参考により良いものにしていきます。食事の提供業務の一部をエームサービス株式会社に委託しています。

主な業務内容

■給食管理業務

給食管理業務を一部委託し、委託会社と協働で行っています。

■栄養管理業務

入院診療計画書で特別な栄養管理の必要性有と評価された患者さんに対して栄養管理計画書を作成し、入院から退院まで定期的に栄養評価しています。

■栄養指導業務

入院・外来患者さんを対象に栄養相談を行っています。

■チーム医療

栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡ケアチーム等

食種に制限はありますが、年末年始を除く毎日、朝・夕に選択できる食事を提供しています。

食物アレルギー等に対応するため、個別に献立を作成することも あります。

小児科医、看護師とともに小児がん患者さんの食欲不振に対応できるような食事について検討を行い、提供しています。 言語聴覚士、摂食嚥下障害看護認定看護師とともに患者さんの摂食嚥下状態に沿った食事の提供を心がけています。

随時病棟訪問し、患者さんの状況を確認し、主食の形態や量の変更のほか、栄養補助食品などの提供を行い、栄養摂取につながるように努めています。

チーム医療の一員として、栄養サポートチーム・褥瘡・外科回診、 ICU・脳神経外科・小児科・循環器内科カンファレンスなどに参加しています。

的確に対象者を把握し、速やかに評価や介入を行える体制の必要性や生活習慣病の増加等に対する効果的・効率的な疾病管理及び重症化予防の取組の推進がますます求められています。そのため、今後も多職種と連携して患者さんの栄養管理を行っていきます。

業務内容	件数
外来・入院栄養食事指導	830
栄養サポートチーム加算	162
病棟訪問	5,379

専門資格名	人数
福岡県糖尿病療法指導士	3名
アレルギー疾患療養指導士	3名

| スタッフ紹介 |



栄養管理課 係長 中山 由紀子 なかやま ゆきこ

臨床工学課

臨床工学課には、臨床工学技士6名が在籍しています。臨床工学技士は現在の医療に不可欠な医療機器に関する専門職であり、チーム医療の一員として診療技術支援および医療機器管理業務を行っています。医療の進歩に付随して医療機器もより複雑化し専門性も増す中、それらを使用した検査・治療が安全かつ効果的に行われるような基盤整備を当課が担っています。

- ■医療機器管理業務
- ■手術室業務
- ■内視鏡室業務
- ■循環器関連業務
- ■人工呼吸器関連業務
- ■各種血液浄化療法
- ■造血幹細胞採取
- ■チーム医療活動
- ■医療機器安全管理責任者業務

手術室, 内視鏡室, 心臓カテーテル検査室, 重症系病棟, 一般病棟において、医療機器の専門家の目線で診療技術支援を行う事でその体制を支えており、関連する学会認定資格等も積極的に取得しています。当院は救命救急センター, 小児救急・小児総合医療センターを有すため、緊急の手術・治療にも対応しています。

医療機器管理業務としては手術・検査・治療・療養の各場面で使用する医療機器の導入時評価や導入後の使用方法の周知に始まり、保守点検やトラブル対応、修理窓口、廃棄評価までを一手に担い、医療機器安全のマネジメントを行っています。医療機器の安全使用のための環境整備や教育、機器運用の効率化によるコスト削減も当課の重要な役割です。

業務内容	実績数			
医療機器使用後点検	33,872件			
医療機器定期点検	1,115件			
医療機器修理	582件			
医療機器トラブル対応	229件			
手術室関連業務	618件			
内視鏡関連業務	1,810件			
循環器関連業務	595件			
血液浄化関連業務	22件			
医療機器運用マネジメント(試用・導入検討・登録・廃棄・運用・情報収集)				
人工呼吸器関連業務(安全管理・提案・指導・教育)				
その他業務(各種委員会・チーム活動/医療安全ラウ	ンド/医療機器研修会)			

資格認定者数

専門資格名	人数	
消化器内視鏡技師	2名	
周術期管理チーム臨床工学技士	2名	
3学会合同呼吸療法認定士	2名	
透析技術認定士	1名	
体外循環技術認定士	1名	
臨床ME専門認定士	1名	
第2種ME技術者	5名	
医療機器情報コミュニケータ(MDIC)	1名	

| スタッフ紹介 |



臨床工学課 技士長 伊香 元裕



看護部

看護部長挨拶

2023年4月に地方独立行政法人北九州市立病院機構北九州市立 医療センターより八幡病院に赴任しました。このたび、2024年4月よ り看護部長に就任しました。両病院での経験と認定看護管理者の資 格を活かして、責務を果たしたいと考えています。

病院理念、看護理念のもと、市民に信頼される医療、看護を提供できるように努めて参ります。少子、高齢社会の中で、医療、看護のニーズも変化しています。このニーズに対応するためには、患者さんのQOL(人生の質、生活の質)を大切にすること、看護の専門性を発揮し、質の高い看護を提供すること、働き続けられる職場環境づくり、健全な病院経営への参画が重要です。患者さんに寄り添い、心温かい看護をめざします。

今後とも、皆様方のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

看護部の方針

八幡病院看護部は、救急医療の役割を担う病院としてチーム医療 を推進し、円滑・効率的に協働するために研鑽を図り専門職として、 倫理に基づいた科学的かつ主体性のある看護を目指しています。

【看護部方針】

- 1) 笑顔で相手の立場に立った看護を提供します
- 2) 自己研鑽に努め知識・技術の向上を図ります
- 3)事故防止と感染予防に努め、安全な看護を提供します
- 4) 快適な療養環境を整え、患者サービスの向上を図ります
- 5)地域との連携を図り、継続看護に努めます
- 6)病院の健全経営に参画します

「救急医療の中核としての役割のもとに、生命の尊厳・人間性を尊重 した、こころ温かい看護を提供します。」

教育体制について

【教育理念】

北九州市立八幡病院の看護部の理念に基づき、専門職業人として時代の変化に対応でき、市民に信頼される質の高い看護が提供できる看護師を育成する。

【教育目的】

北九州市立八幡病院看護部の一員として責務を遂行するために必要な看護実践能力の獲得・維持向上および看護職の学習に対する要望を支援することを目的とする。

看護部教育体系



クリニカルラダー I 研修と厚生労働省の新人看護職員研修ガイドラインに準じた教育プログラム及び標準的な新卒看護師教育スケジュールパスに沿い教育しています。

クリニカルラダーI研修

4月	入職時研修 看護技術研修	
5月	コミニュケーションスキルー、重症度、医療・看護必要度、診療報酬ー、自己分析・ストレス発散法	
6月	フィジカルアセスメント丨、ハラスメント防止	
7月	スキンケア 、看護過程	
8月	災害看護 I、急変対応 I	
9月	感染管理Ⅱ、輸血の取り扱い	
10月	摂食・嚥下障害の看護 、医療安全	
11月	多重課題Ⅰ、退院支援・調整Ⅰ	
12月	患者の心理、逝去時の看護	
2月	事例発表会・今後の課題	

看護部

当院では、より質の高い看護の提供ができるよう認定看護師の資格取得にも力を入れています。委員会活動や医療のメンバーとして院内を 組織横断的に活動し、看護ケアの質向上・チーム医療の推進に貢献しています。また、地域での活動も積極的に行っています。

現在、小児看護専門看護師1名と10分野15名の認定看護師が活動しています。

【専門・認定看護師紹介】

小児看護専門看護師	1名	牛ノ浜 奈央
小児救急看護	3名	梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子
脳卒中リハビリテーション看護	1名	岩永 妙
クリテイカルケア	1名	山下 亮
集中ケア	1名	川崎 久美子
救急看護	2名	井筒 隆博、角田 直也
感染管理	2名	中川 祐子、山田 友美
がん化学療法看護	1名	福永 聡
摂食・嚥下障害看護	2名	最所 麻奈美、日畑 沙也加
認知症看護	1名	塩田 輝美
慢性心不全看護	1名	木原 朋香

特定行為研修修了者紹介

山下 亮

【クリティカルコース】

- ・呼吸器(気道確保に係るもの)関連
- ・呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連
- ・動脈血液ガス分析関連
- ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ・循環動態に係る薬剤投与関連
- ・栄養に係るカテーテル管理

(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連

西村 亜美

【特定行為区分】

・栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連

【在宅・慢性期領域】

- ・呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連
- ・ろう孔管理関連

(胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換)

- ・創傷管理関連(褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去)
- ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

スタッフ紹介



看護部長 高瀬 真弓



(左上から)

- ·山本 優子(医療安全管理担当課長)
- ·吉國 佐和子(業務改善担当課長/認定看護管理者)
- ·朝久 清美(教育担当係長/認定看護管理者)
- ·立石 美枝子(病床管理担当係長)
- ・吉永 友香(副看護部長)

(左下から)

- ・塩田 美樹(副看護部長)
- ・髙瀨 真弓(看護部長/認定看護管理者)
- ・梶原 多恵(副看護部長/小児救急看護認定看護師)

地域医療連携室

地域医療連携室

地域医療連携室では、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活ができるよう地域の医療機関・福祉施設などの関係機関と緊密に連携し、良質な医療の提供が行えるよう調整・連絡を行っています。また、地域医療連携室内に「前方支援」「後方支援」「患者支援」の3部門を設置しており、各部門の担当者が迅速に「連携」や「支援」が行える

ように体制を整えています。

高齢化が進む中で医療相談のニーズも高まっています。当院では 医療相談室を設置し療養上のお悩み、療養生活上の妨げになる問題 (経済的なこと、受診に関すること、療養環境など)について、専門的 に相談に応じる体制を整えています。

地域医療連携室のスタッフ………

管理スタッフ

地域医療連携室長(医師) 地域医療連携推進担当課長(看護師)

木戸川 秀生 松嶋 久美子

担当スタッフ

前方連携

- ■医療機関からの診察や高額医療機器共同利用(CT・MRIなど)予約受付
- ■患者さんに関する情報提供依頼への対応
- ■紹介・逆紹介など地域医療連携に関するデータ管理

■連携医療機関の登録に関する業務

- ■病院の広報・渉外に関する業務
- ■救急紹介患者さんの受入れ調整

事務職 事務職

地域医療連携推進担当係長 事務職・主任 事務職 地域医療連携推進担当係長 事務職 明日香 永末 秀幸 山﨑 裕介 大庭 光司 倉岡 永露 やまさき ゆうすけ おおば くらおか ひでゆき ながつゆ たかし

事務職 事務職 事務職 事務職 典子 石田 友美 山田 理恵 前田 青野 由紀子 いしだ ともみ やまだ ηż まえだ のりて あおの ゆきこ

後方連携

■転院に関するご相談・連絡調整 ■退院後の在宅医療・介護に関するご相談 ■退院後の施設入所に関するご相談

看護師 看護師

 地域医療連携推進担当係長
 地域医療連携推進担当係長
 看護師・主査
 看護師

 金屋 美千代
 三渕 浩子
 西田 ゆかり
 中村 みずえ

 かなや みちよ
 みぶち ひるこ
 にした なかむら

 看護師
 社会福祉士・主任
 社会福祉士・主任

 中村 桃子
 外山 陽子
 野口 佳絵

 ながら まれて
 かざ かざ かさ

患者支援

- ■患者さんの状況に応じた各種医療費助成制度の利用に関するご相談
- ■患者さんやご家族が抱える社会的・心理的・経済的な問題に関するご相談
- ■予定入院患者さんに関する状況把握・不安的要素の聞き取り・問題点の抽出などの対応
- ■児童虐待ケースの状況把握・援助方針などの進行管理・関係機関との連絡調整

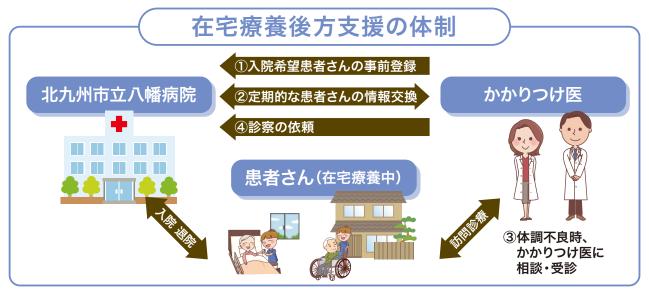
看護師・主査 看護師・主査 看護師 看護師 社会福祉士 植田 啓子 田中 智子 川原 恵美子 伏下 山下 智子 みき けいこ たなか かわはら ふしした やました

地域医療連携室へのご用命

ロフリーダイヤル: 0120-41-6565

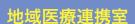
「在宅療養後方支援病院」のご案内

当院では診療所の先生方が在宅加療されている患者さん(原則として「在宅療養指導管理料」を算定されている患者さん)が、急性期医療を必要とする場合は、入院を含め24時間対応いたします。なお、やむをえず当院で入院加療が行えない場合は、当院から他の医療機関へのご紹介をいたします。



- *入院希望患者登録される際は、以下の点にご留意ください。
- ○以下の在宅管理料を算定されている患者さんが対象になります。 在宅時医学総合管理料・特定施設入居時等医学管理料・在宅がん医療総合診療料 在宅療養指導管理料(在宅自己注射指導管理料を除く)を入院前月又は入院月に算定
- ○1人の患者さんが複数病院の入院希望登録は行えません。
- ○入院時に在宅患者緊急入院加算を算定します。(2,500点 入院時1回のみ)

1.患者さんのご登録



北九州市立八幡病院

①入院希望届出書(様式1)(FAX)

②入院希望届出書(登録済)2部*(郵送)

*2部:医療機関用·患者用

2. 診療情報交換

地域医療連携室

北九州市立八幡病院

①患者連絡票(様式2)(3ヶ月毎に郵送)

②患者連絡票(記入済)(FAX)

連携医療機関 (かかりつけ医)

連携医療機関

(かかりつけ医

3. 診療のご依頼

連携医療機関(かかりつけ医)



診療情報提供書(FAX)

(医療連携室 平日(8:30~19:00)

TEL:0120-41-6565 (直通) FAX:093-662-1909 (専用) 救急外来 夜間・休日

TEL:093-662-6565(代表) FAX:093-662-1918(専用)

北九州市立八幡病院

お問い合わせ先:地域医療連携室 平日(8:30~17:00)

病院概要・フロアー図

病院概要

概要

称 北九州市立八幡病院

所 在 地 〒805-8534 福岡県北九州市八幡東区尾倉二丁目6番2号

電 話 番 号 TEL 093-662-6565(代表) FAX 093-662-1796

開設年月日 平成31年4月1日

院 長 岡本 好司

院 長 天本 正乃 / 岡部 聡 / 田崎 幸博 副

髙瀨 真弓 看 護 部 長 事務局長 瀬戸口誠

設 者 地方独立行政法人 北九州市立病院機構 開

理 長 中西 洋一

造 地上7階(屋上にヘリポート)、鉄骨造(免震構造) 構

施 設 概 要 延床面積約28,600㎡

敷地面積 約24,000㎡

病 床 数 350床(内訳) 一般病床:336床、ICU:6床、PICU:8床

員 数 727人(パート含む 令和6年4月1日現在)

医師(歯科医師含む):89人 臨床工学技士:6人 視能訓練士:1人 事務:77人

看護師(準看護師含む):411人 歯科衛生士:1人 社会福祉士:3人 看護補助者:22人 理学療法士:11人 保育士:5人 作業療法士:6人 心理士:2人 薬剤師:27人

診療放射線技師:22人 言語聴覚士:3人 子ども療養支援士:1人 臨床検査技師:29人 管理栄養士:5人 診療情報管理士:6人

標榜診療科

・内科 ·呼吸器外科

・小児神経内科 ・外科 ・肝臓外科 ・胆のう外科

・リハビリテーション科 ・整形外科

・婦人科 ・眼科

・精神科 ・歯科 ・循環器内科 ・小児科

・消化器外科

・内視鏡外科

・形成外科

・耳鼻咽喉科

・救急科

・呼吸器外科

・小児外科

・皮膚科

・臨床検査科

・放射線科

・小児血液・腫瘍内科

・肝臓外科 ・脳神経外科

・泌尿器科 ・麻酔科

病院概要

学会等施設認定

一次脳卒中センター認定

福岡県集団検診協議会検診精密検査実施医療機関(胃がん・子宮がん・肺がん・乳がん・大腸がん・肝臓がん・骨祖しょう症・前立腺がん)

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本病理学会研修登録施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
- 日本神経学会准教育施設
- 福岡県肝疾患専門医療機関
- 生活保護法の指定医療機関
- 小児がん連携病院
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- 原子力災害医療協力機関
- 日本外傷学会外傷専門医研修施設
- 福岡県救急病院認定
- 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会関連施設
- 認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設
- 医療被ばく低減施設
- 日本がん治療認定機構認定研修施設
- 日本小児血液・がん学会専門医研修施設
- 久留米大学教育関連診療科
- 日本超音波医学会超音波専門医研修施設
- 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本小児科学会小児科専門医研修施設
- 日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
- 日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定施設(小児科領域)
- 障害者の指定自立支援医療機関
- 日本専門医機構救急科エキスパート研修プログラム認定施設
- 日本呼吸器学会特別関連施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本小児総合医療施設協議会(JACHRI)会員施設(小児病棟型)
- 日本消化器内視鏡学会JED Project参加施設
- 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- 難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
- 小児慢性特定疾病指定医療機関
- 日本脳神経外科学会専門医関連施設
- 日本形成外科学会認定医研修施設
- 日本内科学会研修連携施設
- 日本循環器学会専門医研修施設
- 日本プライマリケア学会認定研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 日本血栓止血学会認定施設
- 地域リハビリテーション協力機関
- 日本小児神経学会 小児神経専門医研修認定施設関連施設
- 非血緣者間骨髓採取認定施設

フロア一図



外来案内図(1階~2階)

